

農學士遠藤萬二校閲

山本公之著

九州
地方
農家
の
寶

265

139

特45
184

農學士遠藤萬三校閱
山本公之著

九州
地方

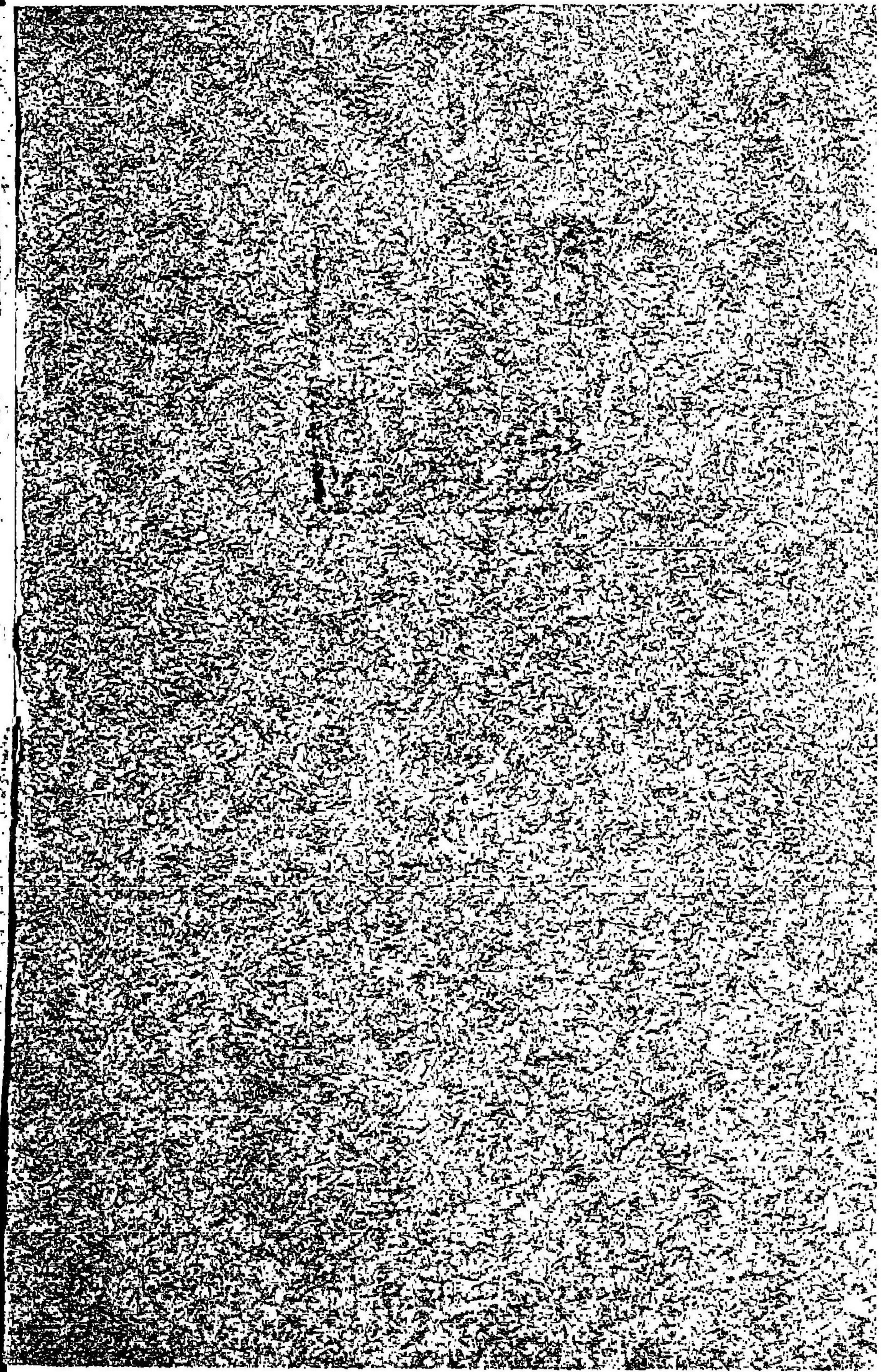
農

家

の

寶

明治
43. 7. 11
内交



緒言

本書を著したる理由

- 一、本年より全く舊曆廢止せられたるに依り農家の困難一方ならざるを察して
- 二、九州地方に適せる農家中行事殆んどなきを以て多大の不便を感じつゝある農家を救ふがため
- 三、農業補習學校或は低位の農學校等を出でたるものにして直接農事に従事する場合に蒞り之れが手引とならしめんがために

本書を著はすに到りたる動機

- 一、予が以前より九州日之出新聞社農事顧問として執筆中讀者より之れが集英發行を促がされたることは前記三條の理由を深く感じたるに基けり
- 二、農事の進歩と共に肥料の購入年々増加しつゝあるを以て肥料に關する一般の概念を智得せしめ之れが廉否の見當を與ふるは多大の急務と思惟したればなり

明治四十三年五月十三日

長崎市櫻町の客窓に於て

著者識ス

凡例

本書は今日行はれつゝある著作方法に一大改革をなし年中行事をして出来る丈け活用せしめんがため時々起り來たる仕事々々の上に1 2 3 4の符合を着け此の符合に依りて之れが栽培法或は注意を後節の1 2 3 4に依りて見出す可し故に本書は最初より通讀するの必要なく時々刻々出て來たる問題を其の折々に研究すれば足れり依て農家は是非一本を座右の友として備へ置くの必要あり

左に引用法を例せんに

年中行事の二月二十日に8 早茄子種子蒔きとあり之は後ち後節六頁に8 早茄子下種方と題して早茄子を仕立るには凡て温床を用ふ云々とあり」後節栽培説明中に下種期或は其の他注意中に期日を記さざるは目次の年中行事と重複するを以てなり
本書引用書の主なるものは河村農學士著應用肥料學高橋農學士の園藝通論及び各種の雜誌等なり

九州地方農家年中行事

目次

一月

一日	四方拜
三日	元始祭
六日	小寒十二月節 晝間九時五十一分
十五日	1、麥第一回中耕施肥
十六日	梅及桑は此の頃より接木するを得べし
十七日	2、桑、茶、果樹の寒肥 土用
十八日	3、豚の交尾期
二十日	大寒十二月中 晝間十時七分
二十一日	油菜第一回中耕補肥
二十二日	蕪姑、連根の採收
二十五日	4、麥 鎮 壓

三十日 孝明天皇祭

二月

- 三日 節分 5、藍、烟草、苗床準備此他接木用砧木準備
- 四日 立春正月節 晝間十時三十二分
- 五日 6、松、竹植付之より宜ろし(五月始めまで)
- 六日 第二回麥鎮壓
- 十一日 紀元節
- 十九日 正月申 晝間十一時二分
- 二十日 7、杉、檜、漆の種子蒔
8、早茄子種子蒔
9、葡萄、スグリ、無花果等の挿木によし
- 二十一日 麥第二回中耕施肥及び油菜追肥
- 二十二日 果樹剪枝好時期
- 二十六日 苗代起し 舊正月十一日
- 二十八日 油菜第二回中耕土寄

三月

- 四日 茶枝剪
- 六日 啓聖二月節 晝間十一時卅五分
- 七日 10、藍、烟草、葱、非葱、茄子、南瓜、胡瓜、冬瓜、西瓜、甜瓜、蕃茄等の床蒔
牛蒡、及び果樹砧木用種子蒔き
11、桑梨等の接木四月土用まで
- 八日 田麥溝上げ
- 十日 此の頃より彼岸前後まで草花類の播種に適す
- 十二、茶の下種
- 十八日 彼岸入り
- 二十一日 春分中日 晝間十二時八分
13 甘藷の床作り 14 馬鈴薯作 15 胡蘿蔔作り 菊芋 藥用人參作
- 16、杉檜其の他諸林木挿し(四月土用まで)
- 秋蒔玉葱移植

二十四日

彼岸さめ

春蕎麥種蒔四月土用までよし三月に蒔き五月節に入りて刈り五月節に蒔七月節に刈り七月節に蒔き九月中に刈り年に三回收穫する事を得蕎麥は總て植付後七十日にして熟す

三十一日

杉の床替

四月

一日

春蒔蕎麥の下種

三日

神武天皇祭

四日

桐の實蒔及び秋蒔甘藷移植

五日

清明三月節

17、牛蒡種子蒔(麥の間作)

18、南瓜、胡瓜、西瓜、甜瓜等の露地播種

19、茄子の下種(露地)

20、蕃茄の下種(露地)

刀豆、鵲豆、菜豆等蒔付け

21、菜豆の栽培

22、里芋作り 大麻種蒔

23、石刀柏播種 朝鮮葱、蕎麥、チヨロギ、青芋、八面芋、亞米利加防風作り

24、甘藷栽培(附花椰菜)

25、苜蓿栽培 百合作り

玉蜀黍の種蒔

床蒔茄子の假植 三椏實蒔

橙、柚、松、杉、扁柏、楓、樟、桃、栗等、實蒔

甘藷の直植

26、水稻蘖水撰 大豆、夏小豆蒔き

土用

27、稲苗代準備(八十八夜まで)

28、此の頃春蠶發生す

柑橘接木移植

二十日

穀雨三月中 晝間十三時十五分

生蠶作り

29、落花生作り.....二七

床前南瓜西瓜甜瓜等の定植.....二八

二十六日 27、水稻浸種.....二九

五月

一日 黍蜀、黍、亞麻、いっぴ、棉、蘆粟栽培.....三〇

二日 八十八夜瓜類は此の頃まで植付けてよろし.....三一

27、水稻種蒔き 桑の壓條.....三二

果樹摘芽手入七月下旬まで時々行ふ.....三三

六日 立夏四月節 晝間十三時四十分.....三四

30、藍の栽培.....三五

31、煙草の栽培.....元19、茄子の移植.....三六

胡麻、陸稻の種蒔き荏の下種.....三七

二十日 菜種刈取.....三八

32、紫雲英刈取.....三九

33、秋蒔葱及全玉葱の移植.....四〇

二十二日 小満四月中 晝間十四時四十一分.....四一

34、甘藷挿し(入梅まで).....四二

田起こし(五月節まで).....四三

連根植の除虫菊採花後株分.....四四

夏大豆土寄せ.....四五

里芋第一回中耕土寄せ.....四六

35、蜜蝋分封に注意す可し.....四七

二十八日 桑園中耕此の頃春熟す.....四八

36、田麥刈取り.....四九

六月

一日 36、畑麥刈取.....五〇

二日 37、水田苗代の除草害虫駆除.....五一

六日 芒種五月節 晝間十四時廿八分.....五二

田小麥刈り.....五三

茄子、瓜類の中耕土寄せ.....五四

十日 畑小麦蒔り.....

十二日 入梅 沈丁花挿し.....

十五日 33、田植(入梅より五月中まで).....

十八日 陸稻第一回中耕追肥.....

二十二日 夏至五月中 晝間十四時卅五分.....

二十七日 38、水稻一番中耕除草(田植後三日目位).....

七月

三十一日 半げ生.....

四日 桑實蒔適期.....

七日 水稻第二回中耕(一番中耕より十日目).....

八日 小暑六月節 晝間十四時廿九分.....

藍 刈.....

十二日 陸稻第二回中耕土寄せ.....

十四日 春時馬鈴薯收穫.....

十五日 秋時馬鈴薯作り.....

十六日 粟 下種.....

十七日 水稻三番草取 (二番中耕より十日目).....

十八日 大麻及秋時玉葱收穫.....

二十日 土用 立冬節まで諸木植替を怠む.....

二十七日 水稻四番草取.....

二十九日 夏大豆收穫 秋大豆土寄せ.....

三十日 粟一番間引中打.....

八月

一日 桑園中耕.....

六日 水稻五番草取り.....

八日 立秋舊七月節 晝間十三時四十六分.....

九日 秋露發生 粟二番間引施肥及土寄.....

十日 藍二番刈.....

廿三日 處暑七月中 晝間十三時十六分.....

廿四日 煙草取入 秋蕎麥蒔 39 大根 40 苧類の種子蒔
秋 蠶 熟 す

九月

一日 二百十日

二日 胡蘿間引追肥土寄

三日 梨、桃、等の芽接

六日 大根 39、苧類の間引 薤 41、ホーレン草の下種

八日 白露八月節 晝間十二時四十二分

42、蕪菁の下種

十日 薄荷の根分

十五日 43、紫雲英下種

二十二日 彼岸 44、晩生稻田水落し早生稻刈
油菜 大芥菜、四月菜、京菜、水前寺菜、体菜、三河島菜の下種

二十四日 秋分中日八月中 晝間十二時九分
秋季 皇 靈 祭

二十七日 10、葱 玉葱、床蒔
葱根分 ニンニク植
桐の實蒔、落花生收穫

十月

一日 除虫菊種蒔

九日 寒露九月節 晝間十一時三十三分
中生稻刈 柿樹植替 フキノ根分(秋冬)

十一日 移植麥種蒔(野菜類の跡地に移植す可きもの)

十三日 陸稻收穫

十五日 45、麥の撰種及黒穂豫防をなす可し

十七日 神 嘗 祭

二十一日 土 用

46、麥類は土用入りてより蒔を可とす十一月十五日までに晩生稻刈、秋大、小豆收穫

二十四日 霜降九月中 晝間十一時一分
秋蕎麥刈取 馬鈴薯掘取り

三十日 甘藷、里芋掘取り.....

十一月

三日 天長節.....

四日 蠶豆、豌豆、燕麥、小麥蒔.....

六日 粟收穫.....

八日 立冬十月節 晝間十時三十一分.....

十日 新嘗祭.....

之れより春彼岸まで各種樹木の移植に適す.....

廿三日 小雪十月中 晝間十時七分.....

47、果樹枝切補替施肥等之れよりよし.....

48、果實の貯藏法.....

廿四日 柑橘の霜殺(十二月上旬まで).....

十二月

一日 苗代田一番起し.....

二日 之れより農閑期に入るを以て各種の副業に従事す可し.....

八日 大雪十一月節 晝間九時五十一分.....

油菜植付、桑枝結束、桑園深打、桑苗寒避け.....

玉葱植付.....

九日 野蜀葵、蕨の速成.....

十四日 大根、菘類の收穫、跡地へ麥の移植或は下種.....

十五日 筍の速成.....

二十二日 冬至十一月中 晝間九時四十五分.....

廿五日 麥踏み.....

二、施肥(追肥)

麥の生育を盛んにせんが爲め追肥をなす

本州の如き暖地に於ては麥の肥料として下肥百五十貫を與ふとせば原肥として百貫を與へ追肥として五十貫を與ふるをよしとす寒冷なる土地に於ては原肥として五十貫施し追肥として第二回五十貫第二回も五十貫を施すを要す

注意

- 一、能く腐敗せしめて與ふる事
- 二、地方の追肥期を考ふる事
- 三、第二回の追肥も成可く三月十八日(彼岸)以前になすべき事
- 四、圃地の各所平等に施すべき事

2 寒肥

寒肥とは分解遅き肥料を防寒を兼ね施すもの也

註、何故分解遅き肥料を寒肥として使用すべきか之れ則ち冬期植物の休眠期に際し養液の需用少故肥料分を除々に分解して其れに適當の供給をなさんが爲也之れに反し速効肥料を施さんか春期植物が盛んに需要を促すときには既に河海に流去してあらず而かも亦防寒として効少き肥料が主に速効肥料と知る可したまに

植物の生長を助れば固ち寒氣のため嫩芽に非常なる損害を興ふ

注意すべきは速効肥料若くは防寒用肥料を寒肥として使用す可き事なり

腐肥の如きは寒肥として最も良好なるものなり

3 豚の繁殖

豚は八ヶ月目より繁殖に用ひ一頭の牝は三四十頭の牝に配するを得牝は五歳まで牝は六歳まで用ひて止む

牝豚の發情は陰部の充血鳴聲、食氣不進等にて知られ三日位續く、其の機を失すれば三四週間に於て再發す交尾後定期の發情無くば妊娠の証也妊娠期間は百十五日、一年二回繁殖するを得三四月及び十月頃分娩せしむれば仔豚の發育に便なり故に正月及七月に交尾せしむるをよしとす、四週間目より搾乳蒸餾麥等を食わしめ三十五日位にて離乳す

4 麥の鎮壓

寒氣強くして降霜甚しき地に於ては必ず二三回の鎮壓を行はざる可らず殊に腐植質の輕鬆土に於ては霜柱の害大なるが故怠らす之れをなすべし

鎮壓は單に霜柱の害を防ぐのみならず莖葉の徒長を抑制し分蘖を扶け桿を丈夫ならしめ穂を大にし風雨の害を除く等の効あり

注意

一、青天の日 二、成長して莖の抽出するときは之れを止む可し
三、足を滑らし葉を傷む可らず
方法は足にて踏むを専らとす素足或は草鞋を着けて行ふ

5 藍、煙草の苗床順備

藍煙草の苗床は巾三尺二三寸長さ適宜の床を設け町嚙に土塊を碎き之れに一坪に對し堆肥四貫人屎五升油粕少量、過燐酸石灰五十匁位を打込み其の儘下種當日迄置き下種の日其上を整理して之れに播種す

「花見遊びは樂しみ薄し

やがて咲かせる稻の花

案山子見なさい御國の爲めに

骨は折れても田を守る

君の恵みと夜露も深かう

下りてゆたかな稻の秋

子爵公爵いろ／＼あれど

國を作るは肥びしやく」

「田草取る日中に流す汗水は稻の肥やしとなるぞ知る可し」

6 松竹の植付法

一、松の植付法

松の山地植出しは滿二年生にして四月迄の間を可とす此の時の苗の高さは一尺前後也然し草多き地に植ふるものは三年生(一尺五寸以上)を植ふ可し、四尺四方に植へ、一町歩に要する苗數は六千七百五十本、山出苗の根枝は適宜に剪定し植付の巨離は瘦地にては三四尺沃地には六尺四方を普通とす

二、竹の植付法

竹林を仕立するには親竹を移植するにあり其の分植期節は此の頃より五月中旬迄行ふ最適期は五月中旬なれども其の當時は農家繁忙の時なるを以て此の二月頃可也
處に依りては筍の一二寸地上へ出たる頃根株と共に筍を植へ出す事あり、一反部に凡そ三四十株を植ふ
水濕の地に植へんこせば豫め排水しおくべし然らざれば地下莖腐敗する事ある可し

7 漆、杉、檜の種蒔法

一、漆

漆の繁殖法には實蒔と根分の二法あり重に實蒔法を取る實蒔に春秋の二期あり、
苗床は稍濕潤なる肥沃地をよしとす充分耕やし高さ五六寸、巾二尺の畦を立て腐熟せる廐肥下肥等を施し一

坪一二合の割にて種子を撒らし蒔く而して上に土を覆ひ緻にて鎮壓を加ふる其上に腐敗せる堆肥を覆ふべし爾後時々晴天の日に灌水し日蔽を設け間引を行ひ液肥及び大豆粕等を施すべし秋季落葉後掘り取りて假植し翌春本植す

二、杉

九州地方にては杉の播種期は二月中旬より三月中旬頃までをよしとす發生まで三四週間の時日を要す播種量は一坪三合を普通とす種子は散播法にして蒔きたる上を緻にて壓し付け二三分目の篩にて床と床との間の土を取り種子の僅かに隠るゝを度として土を被ひ其上を又た緻或は板にて鎮壓し藁を列べて上に竹を押さゑ置く可し

苗床の拵え方

苗圃となす可き土地は冬期深く耕し風雨に暴し置き播種の前に當り再び之を耕して平均し水平の方向に沿ふて巾三尺長さ適宜の床を作り肥料として人屎尿油粕草灰などを施すを可しとす

三、檜木は杉木と全く同じ

8 早蒔の下種法

早蒔子を仕立つるには凡て温床を用ふるを常とす

温床の構成は完全なる方法としては洋式低設温床を用ふれども防風等を完全にせは低設温床を作る必要なし殊に低設温床には費用も割合に多く要するが故に一寸農家に薦むる能はず依て茲には平設温床の造り方を書し事とせり(平設温床とは高設温床及び低設温床に對する語にして高橋久四郎氏は折衷法と云へり)之を造るには先づ幅四尺位の長さ適宜に地を劃し一尺七寸位掘り下げ其内に四五寸位潤葉樹の落葉を敷き其上に八寸程堆肥を置き然る後厚三寸五分位埴土を篩にて篩ひ置き北面を高く南面を低くし爾後雨に會はざる様保護し置くべし

右の如くなさば三四日にて發熱するを以て之れには種子を蒔き蒔を取り除き晴天温暖の日は午前九時より午後四時迄陽光を受けしめ寒天雨天夜間等は蒔を蔽ふ可し

附記

此の苗床を作る前必ず防風物を作らざる可らず之れには蒔を竹にて立つるを簡單にし良好となす北側は一丈位の高さとし東北は六尺西北及び西方は七尺位になす可し尤も苗床の廣狹によりて高低を變ずべし

9 葡萄、スグリ、無花果の挿木法

一、葡萄

葡萄の挿木は(春季發芽せんとする頃)勢力強勢なる新梢を撰み長さ六寸前後に切断し肥沃にして適宜の濕氣を包含する土に若くは有機質に富める地に挿し發根生育せしむ可し挿入後糞を以て上を蔽をよしとす發根後少量の肥料を施す可し挿床は二尺位の畦間に六寸の距離を以て斜に並べ挿し一二芽を出して覆土す

二、スズリ(須具利)

勢力強勢なる新梢を撰み四五寸に切り肥沃の畑地に挿入す可し活着最も易し方法は葡萄と全様の取扱をなすべし

三、無花果

稍や濕潤にして肥沃の畑地に挿し置くときは容易に發根生育す

10 藍、煙草、葱、韭葱、茄、南瓜、胡瓜、冬瓜、西瓜、甜瓜、蕃茄、等の床蒔

一、藍

去日順備したる苗床に種子を水撰して一坪五勺の割合にて土と混じて播種す七十日許りの後ち苗五六寸に生長したるとき本圃に移植す

苗床に於る管理法

種子は三週間位にて發生する故密生せるを間引十日位を経れば四葉を生ず此の時除草をなし油粕或は鱈粕を與へ細砂を撒布す再び十日を経て除草をなす乾燥に失する毎に灌水す可し

二、煙草

煙草の種子は微少にして發芽に艱難なり殊に發芽後と雖も損傷し易き故叮嚀に取扱はざる可らず下種量は一坪に付き一匁の割にして播種終らば薄く土を被ひ(篩にて)鎮壓を加えて藁を厚く蔽ひ置く二寸位生長せ

し頃數回間引をなし株間を八分位とす

三、葱

先づ圃地を叮嚀に耕起し土塊を細碎し三四尺幅の畦を立て充分整地均平ならしめ然る後人屎尿と堆肥を施し薄く土を被ひ水撰したる種子を十坪に對し二三合の割合にて蒔く播種後薄く藁を被ふを可とす

四、韭葱

韭葱は大概葱と全一の取扱にてよし

五、茄子

之れも全じく播種の一週間前より苗床を順備し置くを要す普通肥料として一坪に堆肥四貫人屎尿五六升を打返し置き下種前によく整地し之れに種子を廿七八度の微温湯に一晝夜間浸して播種す

六、胡瓜 甜瓜

之れ等は皆露地に其儘下種するを得れども時節を早め市場に早く出んと欲せば必ず前記の早蒔下種の節(一)に述べたる温床を設けざる可らず

之れに下種し五月旬木葉二三葉を出せしとき栽植す可し温床内の温度は攝氏二十度乃至二十二度の温度を保たしむ可し

南瓜甜瓜等は右と全一

七、西瓜

西瓜は普通露地に播種するときには八十八夜前後なれども早く採集せんと欲せば矢張り温床内に仕立て之れを移植せざる可らず苗床に仕立んと欲せば先づ小さき植木鉢に精撰せる種子三四粒を蒔き床に埋め五六葉を生ずるに至り土と共に鉢より取り出し南面の温暖なる畑地に移植すべし
植木鉢より土と共に抜き取るには稍難難なれば植木鉢に替ゆるに竹筒を二分して之れを用ふれば可ならん價格も安く手数も省く事を得べし

八、蕃茄

蕃茄も全しく温床に蒔付け四月廿日頃移植するを可とす若し通常の苗床に下種して移植せんと欲せば四月五日頃下種すべし苗床は葱(10ノ三)の苗床と全じ下種後共に葉を以て蔽ひ置く可し

11 桑、梨、其他一般の接木法

接木術は農業者に取りて最も必要なるものにして特に果樹、花卉類には此の術の應用せらるべき範圍頗る廣大なり

如何なる場合に接木を行ふか

- 一、開花結實期を速かならしめんとするとき
- 二、老樹の勢力を恢復せしめんとするとき

三、奇品良種を速かに繁殖せしめんとするとき

四、早種を晩種ならしめ晩種を早種ならしめんとするとき

五、奇形の植木を作らんとするとき

六、異花異實全種の植物を一株となさんとするとき

七、矮生の植物を強盛なる生育を遂げしめんとするとき及び之れに反對の時

次に参考の爲め重なる植物の砧木の種類を表記せん

穂の種類

砧木の種類

本果

山梨ズミ、ボケ、實生林檎

梨

山梨、實生梨、温柿

栗

小々栗

桃

桃、杏、李、牡丹杏

梅

梅、桃、李、杏

李

桃、杏、梅

石榴

實生石榴

杏

梅、李、桃杏

柿 實生柿、君邊子
 密柑 枳殼、柚、橘
 枇杷 實生枇杷、楓樟
 接穂

接穂は注意して良好なるものを選択せざれば後日の生育に非常なる關係を有するものなり多くは前年に發生したる若梢の内勢力強盛なるものを選ぶべし

接木を行ふ時は鋸小刀、鉋接葉等を準備す可し普通最も廣く應用する接法は切接術也

砧木は小木なれば土際より五寸位残し大木なれば一二尺の長さに切斷し利刀を以て其の面を平滑にすべし

接穂の長さは一寸五分乃至三寸五分にして三芽位を有するものを缺り切り其の下部を八分内外に削り其の正

反對の部を長さ二分五厘位深く木心に向て斜に切る可し砧木は平滑にして疵なき部分を探り木質部と皮質部

との間隙の柔軟なる形成層の存在する部分を接穂の切斷面と全長に切り下げ穂を挿入して砧木の皮部にて被

ひ打葉を以て下部より巻き上げ上端に至りて捻り置く可し

注意接木に未熟の人は成る可く深く砧木を削る可し

12 茶ノ下種法

春秋二季に下種す時き方に二方あり畦播及び株蒔之れなり畦蒔は粗放なる茶園にて行ふ法にして其の法は巾

三四尺の畦上に連播するか又た四五尺の畦上に二條宛二寸を隔て、碁の目形に下種し發芽後適宜に間引して五寸の距離となす

株蒔は輪蒔四角蒔三角蒔等の別あり

輪蒔とは四五尺内外を隔て、徑一尺余の輪形に種子數十粒を蒔くものとす、然かし輪蒔は中耕に困難なる故多くは四角蒔法を取るが如し四角蒔法は各四五尺を隔て、一尺余の方形に各隅五粒を播種すべし

13 甘藷の床作法

九州地方は温暖なる故甘藷苗の仕立には左程の困難を感せず、然し長崎縣農事試驗場及熊本農學校の試驗成績に依れば矢張り早植に利ありとなす殊に甘藷は截苗に依つて其の收穫高に影響を及すものなれば（先端最もよく中央次位にあり）早く苗床に仕立て之を缺き植になす可し缺植は壹一尺三寸位伸長したるとき之を缺き取り本畑に栽植する法なり而して苗床は其の儘之れを残し置き再度の缺芽用に供し再三行ふべし

而て苗床仕立法は南向きの暖所殊に凹字形の窪地に巾六尺長さ適宜（即ち其の人の栽培の多少に依り長さを變ず可し而して六尺四方に作りしものは壹反五畝歩位の苗を養成し能ふと知る可し）に苗床を設く凹字形の窪地を有せざる時は西北に桓を作りて寒風を防ぐべし床は未熟の堆肥木葉を一尺許りに堆積し上に充分腐熟したる堆肥粉穀及び壤土を盛り之の中に形狀良好にして健全なる種藷を三寸許り隔て、斜に挿入す挿入するときは上部に三分の一位を出して上方を南向になすをよしとす斯くして更らに粉穀を被ひ尙ほ其上に藁を蔽

ひ屋根を設け晴天温暖なる日は蒸を取り去り温熱を與ふべし此の苗床は低設高設勝手たる可し
然かし低設が手續の要する丈苗の生育に良結果を來すは勿論なり

14 馬鈴薯の栽培法

馬鈴薯は春より秋に亘り絶間なく栽培することが出来るが然し主に春蒔として三月に
作るものなり之の春蒔きは九月に收穫し七月蒔は十月下旬に收穫す
肥料は全部元肥として次の量を施す可し

堆肥 二百五十貫 下肥 百五十貫

過燐酸石灰 三貫 木灰 十貫

種子等は壹反部に三十貫を要す薯の形中は中位にして健全なるをよしとす大薯ならば二分して下種する
ことを得二分して下種せんせば上部(附着點)より二分せざる可らず而して切斷面に木灰を塗沫せば
病害を防ぐことを得

作條は二尺株間一尺を普通とす花梗出でなば土寄をなすべし薯を裸出せしむれば有毒なる物質を生ず故
に注意して露出せざることを要す一反歩の收量三百五十貫乃至四百貫あり

15 胡蘿蔔栽培法

人參の良種を産出せんと欲せば地味氣候を撰まざる可らず胡蘿蔔に最適土は排水良好なる沖積粘壤土にして

表土深く肥沃なるをよしとす濕地は大なる根を産するも味、色澤共に宜しからず粘土地に産出したるものは
色澤不良にして疣癭を生ずること多し

之れを栽培するには懇切に深耕したる畑地に六月乃至八月頃基目形に點播するをよしとす其の方法は原肥の
傍に一株十五六粒づ、播種し極く細かく碎きたる土を一分程被ひ置くを要す元來此の作物は播種及び發芽當
時に於て高温度を有する氣候に逢遇するが故に最も困難を感ずるものにして播種其當を得ざれば發芽を誤り
發芽后管理宜しからざれば枯死す、但し充分に注意すれば通常下種後十日を経れば發芽するに至る故に播種
后二十五日を経る伸長生育良好のものを二本丈殘して他を拔去り尙十日を経る一本となす可し既に一本と
なしたる后は割合に手数を要すること少し時々中耕をなす可し

肥料は一反歩次の如し

堆肥 二百貫

大豆粕 十貫

下肥 百貫

過燐酸石灰五貫

木灰 十貫

品種は金時、瀧ノ川、札幌、西京胡蘿蔔等主なるものなり

16 杉 檜 其他 諸 林 木 挿 し

一、杉

杉の挿木法は先づ十乃至二十年生の生長盛んなる樹木の枝を切り二年目の部分を加えて長さ一尺五寸とし其の下部は利刀を以て斜め若くは楔に截り之れを挿穂となす挿穂をなすには金棒を以て地中に梢や斜に穴を掘り七寸位挿入し其の二年目の境を一二寸位地中に入らしめ其の周圍を踏み付け置く可し然し土地柔軟なる處にては別に孔を穿つ必要なし挿穂を水に浸し用ひる處もあり又濕潤なる土中に挿し置き白根の生せる後山地を植うる事もあり又畑に床を作り之れに挿木をなし一二年を経て山を植出すことあり畑に挿し置く時は一坪三百五十本許りをよしとす

二、檜

檜は長さ一尺位に切断し山地に持出して挿入するなり然し之れ等は極く粗方のやり方にして實際は實時をよしとす吾人の觀察によれば挿木及び臺仕立の杉檜等は高さ實時の如くなる能はずして而かも枝葉徒らに繁茂し良好の材木を産出し能はざるが如し故に矢張り出來得べくんば實時法を取るをよしとす此の他林木の挿木は諸種行ははるれども種子強壯にして發芽力大なる故種々の點より實時法を取るをよしとす

17 牛 蒡 の 栽 培 法

牛蒡は表土深くして肥沃なる土地にては何れにても良種を生産するを得可し之れを作るには麥の間を耕転して株間一尺乃至一尺二三寸毎に原肥を施したる后ち一晝夜水に浸したる種子を一株六七粒宛つ肥料の側に蒔き二週間位にして四本となし次きに二十五日を経て二本とし後十日位にて一本となし其の後時々中耕をなす可し一反部の種子量は四合内外とす

肥料は反當次の如し

堆肥	百五拾貫	人尿	六十貫
木灰	十貫	過磷酸石灰	四貫
追肥			

第一回人尿尿六荷

第二回人尿尿拾荷

18 南瓜、胡瓜、西瓜、甜瓜等の露地の下種法

右は性質殆んど全一なるを以て此處には九州にて名ある八代の甜瓜栽培法の一般を紹介す可し同地にて重に栽培するものは梨瓜にして之れが収益は實に一反歩六十圓以上と云ふ同地の氣候は甚だ温暖なりそは九州にて最も早やく新米を出すに依つても知る可し土質は豊饒なる沖積土の礫質壤土也排水は甚だ良好にして夏時には旱魃の害を被むること多しと云ふ

肥料は侍肥、元肥、追肥の三度に分與す

一、侍肥は油粕、木灰、積肥等を使用し二月の初旬に麥の畦間に六尺を隔て、點々輪狀に穴を穿ち是れに施す

二、元肥は干鰯及下肥を主とし時に堆肥を使用することあり之れも侍肥と同一の方法にて施す追肥も同じ

三、追肥は専ら下肥のみを用ふ
右三回の肥料分量は堆肥二百貫油粕十五貫過磷酸石灰五貫灰五貫
下種期は八十八夜前後

此の地方の下種法は主に豫耕を行はず直に圃場に播下すれ共成る可二日間許り水に浸し布に包みて厩肥中に入れ置き一晝夜乃至二晝夜にて發根したるものを蒔き付くるをよしとす

移植法は温床仕立の節に於て既に記したれば此處に之れを略す
發芽後の手入は移植せると直播せるとを問はず眞葉五六葉出でなば根元を去る一尺五寸の處を輪狀に掘り前

記の追肥を施す可し
斯くて同時に最先端の芽を摘除す而して之れより出でたる五六葉の新芽の内二芽を残して他を悉く摘除す蔓

一尺五寸位に延びたる頃畑一面に麥稈を敷く可し
採 收 法

西瓜は落花後四十五日前後越瓜は三十日川瓜は西瓜より四五日早やく採收するものとす
何れも落花の日を記載したる標しを付し置く可し

是れ等は凡て同一地に連栽することを忌む故に少なくとも三四年を経過せしめて輪栽す可し
扁蒲、瓠、苦瓜等の栽培法は大體に於て同じければ之れを畧す

19 茄子

茄子は春彼岸に種子を床蒔するものとす發芽後眞葉二枚半出でたる時一回四枚發生したる時一回都合二回苗床に移植し然る後本圃に栽植す斯く苗床にて數度移植する理由は苗に適當の空間を與へ莖葉を丈夫にし細根を多く出し楠傷を少なくし移植後の生育をして良好ならしめんがためなり

整地及び移植

茄子の栽植地も西瓜等と同じく前作として多く麥を栽培し置くものにして畦巾を二尺五寸乃至三尺に麥を播き翌春四月中旬畦間を打起し株間二三尺毎に原肥を施し之れに苗を移す而して直ちに生葉或は藪を以て被ひ置く可し株間大概二尺五寸内外なり

中・耕 施肥

移植後二週間を経て人糞尿を與へ更らに二週間を経て下肥を施し麥の刈株を根際に寄せ柱を立て莖の倒伏を防ぐ可し茄子は非常に肥料を好むものなれば爾後廿日毎に適宜の下肥を施すものとす普通に用ふる肥料の分

量は次の如し

- 一、原肥 堆肥 二百五十貫 灰 十貫 油粕 二十貫
- 二、追肥 油粕 十貫 下肥 四百貫

木灰は青枯、立枯病を防ぐ効あれば移植後直ちに一株に對し五勺許り宛根際に置く可し
油粕は味を善くし品質色澤を良好ならしめ收量を増加する唯一の特効肥料なり

採收 茄子は可成若き内に取り入る可し勿論果實小なれ共結果數増加する故に收量は反つて多し然かし乍ら販賣市場に依り大果を望む地方に栽培する時は充分果實を大にして販賣する必要あり單に自家用としては早收を可とす

採收するには早朝未だ露の乾かざる時をよしとす成る可く鋭利なる鋏を以て採收す可し

茄子は青枯立枯等の病氣に罹ること多ければ連栽せざるをよしとす

20 蕃茄 (あかなす)

移植の時まで茄子と殆んど同一方法にて宜し

手入 雨後直ちに移植し藁を以て日蔽をなし二週間を経て蔽を取り追肥を施す蕃茄の性質は至極強健なるものなれば強ち雨後速かに移し又たは日蔽をなす必要なし然かし甚だ委細し易きものなり

莖の高さ一尺以上とならば支柱を設け之に莖を纏ひ花出でたる時は大なる花三個を残し殘部を凡て取り除き

花梗の抽出することに此の法を行ふ可し

果實の着色するに先だち其の局部の葉を取り除き陽光にあて、色澤を出だすをよしとす

畦巾二尺五寸株間を二尺位とし本植するを普通とす

21 菜豆

種子蒔き時期は八十八夜後なり暖かなる砂地の如き處にては三月中旬より宜し

栽培法

蔓る有るものは畦巾二尺五寸採間一尺とし二三粒宛下種す

發育して蔓生せば畦の中央に交叉する様兩作線の少し内より竹を立て合せ横に竹を渡たして三段位とし之れに藁を垂下して纏繞に便ならしむ

蔓るなきものは畦巾一尺五寸に株間八寸位とす可し

肥料は下肥と木灰の少量とを施さばよし

蔓無菜豆は春早やく或は秋遅く採收する様栽培し得て頗る利益あるものなり

22 里芋

里芋の栽植は前記表中にある如く四月上旬なり

之れも多くは麥の作條中に植込むを常とす

植方は點々穴を設け之れに完全の種子芋ならば一箇稍不良なるものなら二個宛栽ゆるものとす此の頃は寒暖乾濕定まりなき氣候なれば腐敗せずとも發芽生育を害すること少なからざる故稍深く埋むるをよしとす肥料は次の如し

- 堆肥 二百貫
- 米糖 二十貫
- 灰 五貫
- 下肥 三百貫

發芽後二回中耕除草を兼ねて根際に土を寄せ終りに雜草莖を以て根元を蔽へは一層よろし(但し此の期節は降雨少なきため旱魃の害に罹ること多ければなり)

28 石 刀 柏 (マツバウド)

本種は將來有望なる野菜にして本邦の獨活に類似したる蔬菜なり

栽培法

種子は苗床を作りて之れに厩肥を敷き薄く撒播す一ヶ月以内に發芽するものなり

發芽してより二三寸となる頃間引きして適當の距離となす斯くて毎年移植し栽培する時は四年目には大なる嫩芽を採收するを得べし

軟化法には種々あれ其通常は栽培の儘株際の土を掘り上げ株の上に馬糞及び敷葉の混和せるものを一尺五寸の厚さに載せ其の上に土を覆ひ置くものとす斯くて芽七八寸に伸長して未だ地表に現はれざるものを根元よ

り切り束として販賣す十ヶ年間は同一地に栽培するを得べし

24 甘 藍 (タマナ、カベジ)

苗床は巾三尺とし堆肥を薄く一面に敷き下肥を施し土を蔽ひ其の上に播種す下種してより土を薄く覆ひ藁を以て日蔽をなす

各々眞葉二枚を増毎に適當の距離に他床へ移植す苗床にて二回或は三回移植せる後ち本畑に栽培す可し本植の時は畦巾を二尺五寸乃至三尺株間を二尺五寸内外とす

肥料

- 一、原肥 堆肥 三百貫 下肥 二百貫
- 過燐酸石灰 五貫
- 二、追肥 下肥 三百貫(二回分施)

採收、秋蒔は五月に採收し八十八夜蒔きは十一月に結球するものなれば引き抜きて一ヶ處に集め密植して鉢を被ひ置かば春暖加はりて生育を初むるまで貯藏するを得べし

花椰菜其他甘藍類に属する羽衣、子持、蕪著甘藍等は殆んど甘藍の栽培法を以て應用し得可き故に之を略す

25 苜 蓿

苜蓿は殆んど周歲栽培採收するを得て至極く重寶なる野菜なり種子は堆肥及び下肥を原肥として施したる

床場に散播とし發芽後三芽を出せし時分畦巾三尺の床上に五寸株間とし原肥を施したる後定植す
採收は定植後二三ヶ月目より之れを行ふ

26 水 稻 塩 水 撰

淡水一斗に對し

糯及び芒を有する種は塩二升乃至三升(比重一、一〇八)

芒を有せざる種は塩三升乃至四升(比重一、一三〇)

右の種類を撰ぶには先づ第一に無芒種の種をなし次に全液を稍稀薄として糯及び有芒種の種を撰ぶ可し塩は水一升に就き二百匁以上溶解する能はず比重は一、二〇を越わす

27 水 稻 苗 代 準 備

苗代田は日當、通風、灌漑、排水宜しく土地中庸にして耕土余りに深からず鳥虫害の豫防に便にして而かも人家に接近せざる處をよしとす

苗代の肥料は速効肥料を可とす而かして窒素質肥料を多量に施す時は莖葉徒長して良苗を得る能はず故に従來多くの農家が行ひ來たれる處の綠肥は成る可く止め左に記載の肥料を用ふ可し

勿論土質の如何を参照して増減せざる可からず

苗代一坪に付き

下 肥 四升五合 過磷酸石灰 五十匁

灰 三 升

一反歩に要する苗代坪數は六坪内外

一坪に對する播種量は三、四合(撰種したるもの)

や、余分に見積りて一反歩に三四升とせば充分なり

苗代の水加減

播種してより發芽までは淺く水を湛せ置き若し雨天ならば増水す可し發芽後は雨天、曇天及び寒冷なる日を除き午前九時より水を排し床面の漸やく水に浸る位とし午後の四時より再び灌水し一寸位の深さとなし常に幼苗を温暖ならしむ可し斯くて苗一二寸に達せば後は常に淺水となし温暖なる日には必ず水を排して土壤を陽光大氣に觸れしむ可し

水稻の浸種は一週間を適當とす

山陽支場の成蹟次の如し(一反歩)

五日間浸種 二石六斗六升五合 六十日間全 二石五斗四升九合

九十日間全 二石四斗二升七合

九州の或る地方の如きは浸漬三四十日に及ぶ處あり宜しく改めて一週間位と爲す可し

「春は嬉しや二人揃ふて苗代仕事薄時、浅水、種子撰み短柵形には誘蛾燈もよいと螟虫の卵取り」
 「男振りには私しやはればせぬ作り上手に實はれた」
 「はでな浮世の色香にそます汗のはだきで田を作れ」
 「腰のいたさよ此の田の長さ四月五月の日の長さ」

28 春蠶の發生

捕立 催青後蠶兒が僅かに發生せるを見れば豫め重量を計れる紙に包みて七三四度の温度を與ふれば翌日午前中に大部分發生する故正午頃種紙より包み紙に叩き落し之れを秤量して前重量を引き蠶量とす
 此の他捕立法は種々あれ共之れを畧す
 飼育蠶兒幼なる時は小量宛つ屢々給桑す可し
 普通次の如く時間を定めて給桑す

一齡中一日八回即 午前四時 全七時 全十時 午後一時 全三時 全五時
 全八時 全十一時

一夕の蠶量に對し一齡中に桑量三百四十二夕位

二齡中給桑回数七回

午前四時 八時 十一時 午後二時 五時 八時 十一時

二齡中總用桑量八百夕

三四齡中は六回給桑

五齡中は五回

合計給桑回数百八十回余總給桑量四十六貫目(温度七十度前後の時)

青蠶の最適温度は七十度乃至七十五度

七十度の温度にては飼育日數三十五日

七十五度にては三十日

濕氣は温度より幾分小量なるをよしとす

29 落花生(らつくわせい)

畦巾二尺株間一尺五寸乃至二尺位とし一株二三粒づゝ特き肥料を施す可し肥料は

堆肥 二百貫 木灰 十貫

下肥 百二十貫

栽培法は各枝四五寸に延びたる頃中耕し其の後一二回中耕除草を兼ね行ひ果支を地中に進入し易からしめ上方に支葉繁茂する時は根直下するに依る故此の直下せる細根を切斷す可し他の方法としては莖葉上に土を盛るもよし

30 藍

元

苗床に養成したる苗此の頃五六寸に伸長するを以て本畑に定植す定植後三回中耕除草をなす

肥料 大豆粕 七十貫 過燐酸石灰 八貫

堆肥 百貫

右の肥料を二分し一つを原肥とし他を補肥として麥收穫後直ちに施す

栽培中乾燥に失する時は適宜灌溉す可し

收穫は移植後七十五日にて差開なし

之れが適期は即ち花梗を抽出する前なり刈取るには早朝根際より三寸の高さより行ふ

調製

刈取りたるものは三株許りを合して小把に束ね直ちに乾燥す

乾燥したる藍は其の上部三分の一を四五分に刻み取り其下部は其の儘殘し又た乾燥す充分乾燥したるときは之れを莖及び葉に別つ

二番刈り 刈取り後又た前記せる肥料分量の三分の二位を施して之れが栽培をなし再び刈取る事を得

31 煙草

此頃床蒔きせる煙草の苗六七寸となり五六葉を生じたる時なれば本圃へ定植す

肥料は補肥原肥を合して次の分量を施す可し

堆肥 三百貫 油粕 二十五貫

木灰 十二貫 下肥 八十貫

注意煙草は多量の人糞尿を施す可からず過分に下肥を與ゆれば火付を悪くし品質を害す

栽培、前記の肥料中下肥と油粕の幾分とを殘し補肥として施す普通畦巾二尺七寸に株間一尺五寸とす

中耕除草を四回行ふ可し

花梗抽出せば直ちに摘心を行ふ事

傍芽萌出する時は臨時摘除す可し

移植後三ヶ月にて採收するを得

採葉するには次の準序を以てす

土葉は本葉より一、二週間早やく本葉天葉は同一時に

32 紫雲英刈取

栽培及び効用等は後節下種の部に識したれば茲には刈取收量併びに其處分法等を記す可し

刈取時期は丁度盛花の頃なり收穫期を遅くすれば左の如く窒素分の損耗あり(盛花期の窒素を百として)

盛花期 窒素 一〇〇、 盛花後一ヶ月を経たるもの 七七、

元

收量 一反歩の收量は土地に依りて相違あるも通常五六百貫より千貫位なり
 今六百貫の紫雲英を得たりとせば此の内に含有する窒素成分は二貫八百八十匁にして若し一千貫とすれば實
 に四貫八百匁を抱含す依て平均三貫五百匁として計算する時には水田一反歩に施す窒素肥料を得可し
 普通窒素一貫目の價格を貳圓五拾錢と見積る故に拾圓五拾錢なり此の他原栽培地に残留する根株等を合算せ
 ば殆んど拾五圓に上る可し恰かも一斗壹圓の麥を一石五斗得ると同じ
 之れを施用するには其の儘青葉を施すこと乾燥或は堆肥として與ふるものとあり乾燥せしめて施す時は運搬
 に便なれ共腐敗遅し

33 秋蒔葱の移植及び栽培法

葱は火山灰土、壤土、砂壤土等を最も好んで居ます植むますには畦巾二尺五寸にして作り條の處を深さ一尺一
 寸位に掘り下げ夫々其の底の部分を軟らかにして之に次の分量の肥料を原肥として與わますので御座います

堆肥 三百貫 油粕 十三貫
 木灰 二十貫 下肥 二百五十貫

實は過燐酸石灰も入れて欲しいがあなたがたはいつも過燐酸を御持ち合せになりて居ません故油粕を
 少し加ねて置きましたから右の分量で間違はありませぬ植付の際は苗に土を付けないでも宜しうございます
 三寸許り隔て、一、二本宛つ植ゆるのです植付けて後は追肥をやらす追肥を施こさんごせば土を覆ふ事三四

寸の時に施すのでございます斯くて葱の伸長するに従つて土を覆ひ最後には地平線より根株に向つて盛り
 立て終りに白い葦が長さ一尺二寸位とならば收穫して賣り捌くのです

34 甘藷の芽挿し

前節甘藷の床作りの處にも一寸御注意申し上げたる如く槍は長きに利あり甘藷は早きに得ありですから無理
 せぬ丈早く植ゆるのです然るに之が植付時期は田植時期と前後す可ければ成る可く田植前々に植わ付く可し
 問 若し蔓るが残る場合には何れの部分を作り何れの處を棄てますか奉公人を除いては何方も勿論一番根
 に近い方を捨てましょう即ち根の方は一番收量が少ないですから

35 蜜蜂分封

分封とは一團の蜂が二團となるものにして一年數回其の回數は蜂群の繁殖の具合蜜の多少氣候の如何に依り
 て定まりなし恰かも此の前後に第一回の分封行はる、故に注意して取り逃さぬ様心掛く可し
 分封を行ふ日は蜂巢外に出で、勞働すること少なし
 王蜂は働蜂の八分通り巢箱内を出でたる時出で來り附近の樹木に休息す王蜂休息すれば働蜂集まりて塊りを
 成す此の休息時間は三、四時間乃至一、二日間なれば急ぎて用意の巢内に取り入る可し

36 麥 刈

麥刈るのに別段御注意申上ぐる如きヶ條は御座りませんが思ひ付きたるもの一二を申せば之れが取り入れ時

が相憎梅雨に遭遇する事です此の時期を誤りましたら折角の黒穂よけのまじないも種子撰み其他種々の手入等も全く取り壊れまして辛勞損となつてしまいます俗に申します様に稲は三日の植時きありて百日の刈時ありて百日の蒔時ありて三日の刈時ありと誠に麥の刈時には注意せねばなりません殊に麥稈真田用の麥の刈入は一層のことでもあります

加何なる徴候を現はしたる時刈取るかご申せば穂と穂頸が黄變し初めた時が最も宜敷うございます
遅刈りには次の如き損失あり

- 一、梅雨に相対すること
- 二、麥粒脱落する事
- 三、味ひ不良なる事
- 四、收量減する事
- 五、消化不良にして滋養分減少する事

37 苗代除草及び螟蟲驅除 (メイチニー、ズイムシ)

收穫の多少は苗の良否にあり良苗を仕立てんと欲せば除草害虫驅除を務めざる可からず(汝ち雜草をほろぼさざれば雜草汝をほろぼす可し)

螟虫、螟虫に二種あり一を二化虫他を三化螟虫と云ふ(此の外大螟虫等あれ共前二者を普通とす)

二化螟虫は一年二回發生す

卵は百粒位集まりて一塊となり主に葉の表面にあり腹毛なく裸出す

三化螟蟲は年三回發生す

卵は殆んど二化螟虫と同數にして前者より隆起す卵塊の表面に白色の腹毛あり

38 田植

挿植の時は次の數項に注意す可し

- 一、植付の深さは一寸五分以内
- 二、一坪の株數は四五十株内外
- 三、一株の本數は七八本
- 四、挿植は晴天にして無風の時をよしとす

水稻栽培上注意す可き事項は

- 一、從來農家が施用し來れる稻作肥料は窒素成分に富る磷酸(加里は肥料其の者は乏しけれ共多量に土中に存在するを以て)の成分に乏し故に磷酸分を増さざる可からず
- 二、植付當時施すものは魚肥、過磷酸石灰、精類此の他人造肥料等
- 三、植付前に施すものは草肥、堆肥、厩肥、糞、糠、石灰窒素等
- 四、植付後に施すものは人糞尿及び腐敗せる精類硫酸安母尼亞等なり

右の内過磷酸石灰は植付後に施すも差問なし

五、施肥期と土質との關係

- イ、粘土地は全量を原肥として追肥を施さず(但し特殊の人造肥料を除く)

ロ、砂土地は三分の二を原肥とし三分の一を追肥とす可し

六、土地瘠薄、氣候寒冷なる地は密にし肥沃にして温暖なる處は疎に植うるものとす

七、概して一坪の株数を多くし一株の本数を少なくするを利ありとす

八、粗密の害は次の如し

イ、疎植の害は

一、成熟不揃なり

二、若し害虫発生したりとせば本数少なき程被害多し

三、収量を減す

ロ、密植の害

一、大氣日光の透過を悪しくし稻の生育悪ろし

二、除草驅虫に困難なり

三、病虫害の發生多し

四、収量を減す

ほれちや因まるがまあきかしやんせわしが女房の田植歌

本田灌溉

灌溉の目的

一、稻に適當の水分を給す

二、土中の養分を溶解し作物に吸収し易からしむ

三、土中に温度を保持す

四、土壤を膨軟にし根の蔓延を便にす

五、肥養分を増加せしむ

灌水に對する注意

深くする時は次の不利あり

イ、土地を寒冷ならしめ生育を害す

ロ、莖葉軟弱となりて倒伏し易し

又た有害水を灌がざる様にす可し

中耕除草

除草の目的は田面に生ずる雜草を取除くのみならず土壤を膨軟にし且温度を高め肥料の分解を速かならしむ

除草は成る可く温暖にして晴天の時をよしとす（殊に炎天の日中を最良とす）五回除草をなす可し

（夏は嬉しや二人揃ふて田の草さ仕事立蟹爪には浮根切り草取り毎には水落しちよいと一反四石取り）
「腹立て、引けば鴨子の繩は切れ」

「今年や世がよて穂に穂が咲いた俵立て置き箕で計る」

39 秋大根の栽培

秋大根を栽培するには先づ土地を深く且つ丁寧に耕鋤す可し

畦巾三尺長さ適宜の畦を作り之れに二條の作線を切り其の間を一尺五寸とし株間を一尺二寸とす勿論表土深くして排水良好なる土地には畦を設けずして整地後直ちに作線を設けて下種するを得べし

補付の際は一株七八粒を下し之れを三度に間引して後ら一本となす

(肥料)有名なる練馬大根産地なる練馬村にては左の如き割合にて施す

堆肥 二百貫 下肥 三百六十貫

米糠 十二貫

大根には米糠か過燐酸石灰か兎に角燐酸肥料を與るを要す之を施す時は大根の質を密にし味を良好ならしむ大根の採種をなすには固く他種との交雜を防ぐ可し故に種子用のものは交雜少なき地を隔離して栽培するか又は移植す可し別に種子用として栽培せざる時は大さ中等以上にして形状正しく品質、色澤、莖葉等其の種類固有の特徴を具わたるものを下三分の一を切り去り灰を付け肥料を施して二月中旬に移植す可し

40 苧類の栽培

苧類とは白茶、山東菜、体菜、三河烏菜、壬生米、京菜、小松菜、大介菜等を含むも茲には單に山東菜白茶の類を記す可し

之れが栽培も大根の章にて述べたる如く畦作り平作り各々其の事情に依り異なる可し若し畦作りにせんと欲せば畦巾を三尺に取り二條の作線を設く作線の間は一尺五寸兩端は七寸五分内外とす可し

發芽後一回間引きて追肥を施し其より二回間引す大根と同じ 三回位に間引く可し間引きの際は次の事項に注意す可し

抜き去る可き苗

- 一、徒長して莖葉濃緑なるもの
- 二、葉面及び葉縁の凸凹結刻大にして少なきもの(但し種類に依り異なる故其の種類の特性を知らざる可からず)
- 三、過少なるもの
- 四、距離不平均す可き苗
- 五、虫害を蒙れるもの

第三回間引の際二回追肥を行ふをよしとす

肥料の分量は

原肥、堆肥 二百五十貫

下肥 百三十貫

過燐酸石灰 五 貫 追肥 第一回下肥 百五十貫

第二回下肥 百五十貫

41 菠薐菜の栽培

ホーレン草は春季にも下種すれば其莖葉の伸長速かにして花軸を抽出する事早やきが故に通常此の頃下種するものとす發芽前強雨に相遇すれば發芽を害す多く露地に直播す採收期は三四月頃なり肥料はついな類と殆んど同一にしてよし

42 蕪菁ノ栽培

蕪菁は強粘土地に適せず砂土は一般に根塊小なれ其佳味なり

根塊の割目を生ずるは急に養分を吸収し迅速なる成長を爲がためなれば稀薄なる肥料を度々施す可し又た天王寺蕪の如く根塊に被土す可からざるものと聖護院蕪の如く被土す可きものとあり之れが良種は聖護院、近江、天王寺、蕪菁等なり

43 紫雲英栽培

豆科植物の特性

- 一、深根にして底土より多くの養分を吸収す
- 二、根に一種のバクテリア、ありて空氣中の窒素と利用する性質あり

紫雲英を栽培するには秋季稻の水を要せざるに至り一反歩二三升の割合を以て稻株の間に蒔き排水を充分ならしめ又た霜害の恐れある地方は稻の刈取後葉を七八寸に切りて蔽ふ可し斯くして翌春彼岸に下肥の少量及び木灰を施す可し

44 水稻の落水に就て

落花より穂先の少し傾くまで極めて水を淺くし穂先の傾きたる後は全く水を排除す可し落水せざるの害

- 一、成熟を遅くし且つ遅れ穂を生ず
 - 二、米の品質を悪しくす
 - 三、莖葉軟かくして倒伏の恐れあり
 - 四、倒伏の決果子實發芽の恐れあり
- 早魃の時は如何なる注意を要するか

- 早魃は強ち水稻のみとは限りません色々な野菜其の他總ての作物皆な之れが害に罹るを以て一通り御承知の事肝要と思ひますから少しく御注意申て置きます
- 一、土地の表面未だ全く乾かざる内表土を薄く極く荒らく打ち起こす事
 - 二、地面に藁、雜草、廐肥等の被覆物を撒布する事

三、水稻にありては非常に早刈せる後ら俄かに灌水する時は根腐敗する事往々有るに依り豫め田面に少し水を張り一晝夜を経て充分灌水するをよしとす

四、灌水の節は成る可く葉に掛くるを避け根株に施す可し殊に夏時日中に葉上よりあひせ掛くるは作物に非常の害を與ゆ

五、少量の灌水は全く灌水を成さぬより害あり

六、野菜類の畦作りせるものは側面灌溉を最もよしとす(側面灌溉とは畦溝に水を引き入るゝものなり)

稻の刈取りに就て

稻の刈取りも水避と同様で早中晩の別と土地氣候習慣上の關係より其の期日を定むる譯には行きませんから如何なる徴候を現はしたる時に刈取る可きや及び早刈りと遅刈りととはごうらが利益が多きや等に就て少し申上ます

收穫の適期

穂が全部黄色となり穂頭も又た稍黄色を呈する時を最も良好なる刈時とします(葉莖が幾分青い時に)

早刈に過ぐる時は……青米を混すること多く又た貯藏中に幾分害を蒙るある可し

遅刈に過ぐる時は

(一)穂の部分を増し(二)米の光澤を悪くす(三)米の質を悪くします(四)籾摺り歩合を減す(五)白搦

場合に碎け米が余計に出來ます(六)食て味が宜敷ありません(七)不味いのみならず滋養分として消化す

ることが困難となります(八)鳥害虫害を蒙る事が益々多くなり(九)風雨の害を多く蒙ります(十)のみならず

早刈に比べて收量が一般に劣る傾きが有ります其の上葉の性質が變ずるのですからたまりません

列へ來ますれば早刈りに過ぐる損失は二條件で遅刈りの爲めに蒙る損害は十ヶ條となる故に農家は適宜に

刈取る事と能はざる様な事情があるならば一層早刈する方が得策であります

(霜のあしたや雨の夜の苦勞したのが實を結びくわへ煙管の落そゝにゆさりノの穂の重さ)

(米がよいく麥もよい今年しや豊年當年一人息子に嫁取ろ一畔にかけ腰垂穂を眺め露に濡よが暮様が)

(村角力よく禰の取れる事)

(村芝居千代萩が初日なり)

(稻刈の月に鎌磨ぐ門田かな)

(選りて蒔きたる辛苦の種子が秋の收納にます笑顔)

(樂は苦の元苦は樂の元かせぐ農家は國の元と)

「千町田に注ぎし水を落すには少し稻穂の黄みたる頃

「竹ならば枝に止めて明日や見ん稻田の雀おわぬ日はなし

「苗なりと見し間にいつか穂に出で、ゆたけく實る千町田の稻

秋は嬉しや二人揃ふて稻刈仕事乾燥調製念を入れ

二重俵に五つめちよよいと四斗俵改良米」

45 麥の撰種に就て

大粒は小粒よりも充實粒は不充實粒よりも良好なる種子たる事は言を誤たす西ヶ原農事試験場の試験成績を記るせば次の如し

○大麥收量 (一反歩)			
大粒	一石一斗八升	中粒	一石
小粒	八斗七升	○小麥收量	
大粒	一石九斗九升	中粒	一石五斗六升
小粒	一石三斗一升	○裸麥收量	
大粒	一石六斗九升七合	中粒	一石五斗五升七合
小粒	一石四斗七升三合		

右の如き相違を生ずるに據り撰種の等閑に付す可からざるを知る可し、然からば撰種は如何にす可きや撰種には種々あれ共苦鹽汁撰をよしとす但し大麥は鹽水撰を行ふを得べし大麥比重一、二〇より一、二三位なる故水一斗に食鹽三升五合計りを入れて製す可し若し苦鹽汁ならば水一升に苦鹽汁一升の分量にて製す可し裸麥及び小麥は比重一、二二内外なる故食鹽にては撰種する事能はず故に苦鹽汁一斗に對し一升位の水を投じて之れに撰種す可し

總て撰種したる種子は直に清水にて洗滌し陰干とし乾かして後下種す可し良好なる種子とは重く大きく新しく整一にして固く色澤共に良好なるものをいふ

種子の大なるものは恰かも豊富なる乳を有する母親に育つ小兒の如きものでありまして實に大切なものであります人間に於きましても小兒時代に完全なる發育をなさば後年に至りて矢張り辛苦困難に堪へ乳不足の母親に育ちし子供は一生不完全なる体格に終る事は御存じの通りである可憐な保護を加ゆる人体に於ても尙ほ斯の如し然るに麥類等は單に子實中に含む乳を消費し盡す時は最早母親の保護を受くる能はず之れに依て撰種を等閑に附す可からずと申し上げるので有る然かるに麥種に不注意なるは農業者の一大通弊の様である常に「撰りて蒔きたる辛苦の種子が秋の實のりに増笑顔」と云ふ歌を忘れぬ様に願いたい

麥の黒穂は如何にせば之れを全滅する事が出来ませうか

近來麥に黒穂の多い事は實に非常なもので御座います甚だしき處に至つては一割位は黒穂病の爲めに犯か

れて居て誠に花嫁様なんかには氣の毒で草取りにも中耕にも入れられぬ様で御座いますまゝの之は冗談として兎に角此の病氣の爲め多大の被害を蒙りつゝある事は御承知の通りである然らば此病氣を如何にせば防ぐ事が出来るかと申しますに之には色々な方法が御座ります

「第一の方法」木灰の汁に麥種子を浸し置く即ち木灰一升を水三升の割合に溶し之に麥種子を三十六時間より四十八時間許り浸漬すれば黒穂病を豫防し得るのふならず麥の斑葉病をも豫防し得べし

「第二の方法」生石灰一升を水二升の割合にて溶解し之れに、麥種子を四十八時間浸漬すれば黒穂病を未然に防ぐ事を得べし

「第三の方法」之れは少々面倒の仕方御座りますが最も効力のある方法で有ますから此の項に特に御注意あらん事を乞ふ

第三の方法とは即ち温湯浸法であります、温湯浸法に二つの方法が有つて一つは即ち單に温湯浸法と云ひ他は冷水温湯浸法と云ふ

(イ)温湯浸法、此の方法は麥種子に附着せる黒穂菌その他の病原菌を殺菌せんがため種子を華氏表暖計の百二十度の温湯に五分間浸し置き取り出して直に百三十度の温湯に五分間浸し(袋に入れて浸す)後取上げ

簾に擲げて乾す可し温湯を入れたる桶の附近には熱湯と水とを用意し置き常に温度を加減す可し
(ロ)冷水温湯浸法、冷水温湯浸法は前法の手続きをする前に八時間冷水に浸し取り上げて然かる後(イ)の法

方を行ふのである何故に冷水にまで浸して御手数を煩はすかと云ひますと前の方法では豫防し能はぬ黒穂病有りますから此等の黒穂を豫防するので有ます多くの農家は黒穂と云ば單に一種類だけしかなきもの、如くに考へて居らるゝ方が多い様でありますが何うして六種類許り御座います其の内主なるものは前法にて豫防し得ますが裸麥黒穂病小麦黒穂病は本法に依らざれば防ぐ事は出来ません夫れで御手数ながら此法を行ふので有ります此の法を行ひますなら凡ての黒穂と麥種子に附着せる色々な病原菌を殺菌する事が出来す此の外人尿の新しきものに麥種子を浸し置く法もあれば能禁或は綠葉病にて攪種を兼ねて消毒を行ふ事も有りますが此等は多く農家に望む可からざれば之れを略す

94 麥の栽培法

播種量は稲作に於ける如く從來多きに失したる傾向あり即ち多きは反當一斗の量に達し少なきも六七升を下らず厚播の害は次の如し

- 一、日光大氣の疎通悪きこと
 - 二、稈弱く倒伏し易し
 - 三、莖葉軟らかくして寒傷に罹ること多し
 - 四、種子量を多く費やす
- 裸麥小麥は一反歩四升を標準とす

栽培法に畦作りと平作りの二種あり畦作りは主に水田に行ひ平作りは畑に行ふ畦作り横溝と縦溝の二種あり

各所の試験成績に依れば縦溝を以て一般に収量多しとなすもの、如し尙ほ又た施肥手入收穫等凡て縦に使

肥料

堆肥	百五十貫	油粕	八貫
過磷酸石灰	五貫	木灰	五貫
下肥	百五十貫		

右の肥料中には窒素一貫七百目餘磷酸一貫七百目加里二貫目余を含有す

手入霜害甚だしき土地は踏壓を行ふ可し

之れが利益は程を強健ならしめ氷霜の害を防ぎ穂を大きくし分蘖を多からしむ可し

(中耕は第一節にあり)

「冬は嬉れしや二人揃ふて麥蒔仕事高畦立てやら黒穂よけ肥料は磷酸大豆粕ちよいと追肥彼岸まね

74 果樹枝切植替施肥に就て

果樹と一口に云ねば簡單なるも之れが内には各々種属の異なるもの數多あれば夫々栽培法を異にす可きは勿論なれ其茲に通論的に記るさんには次の如し

果樹類の枝切りは一定したる時期あるなし隨時に之れを行ひ得然し此の期節より漸次寢閑に趣くを以て果樹の手入に着手するをよしとす

剪定(枝切)の利益

- 一、剪定は樹の生育を強盛ならしむ
- 二、剪定は樹姿を正整ならしめ生育を均一にす
僅かにても生育一方に偏することある時は夫れより其の方にのみ生長結果し遂に他方の枝梢は衰弱して枯死するに至る生育の均一は極く大切なるものなり
- 三、剪定は葉芽を變じて花芽となす
- 四、果實の品質を上進し熟期を早やめ且つ果實を豊大ならしむ
- 五、地積を節約し同一面積に比較して收穫高を増加するを得
- 六、生長強盛にして結果し能はざる果樹に之れを行ふ時は強盛なる生育を抑制して結果せしむるを得
- 七、病虫害を減少し且つ驅除に便利なる可し

剪枝に就ての注意

一、小枝に多く結果する性質の樹木は大枝を剪定し成る可く小枝に力を附せしむ可し（桃、李、梨等の如きもの）

二、大枝に多く結果す可き果樹は小枝を切り棄て大枝を多く養生す可し（柿、枇杷、栗、葡萄、蜜柑、イチジク等）

三、樹木の生育を均一にせんと欲せば小枝を長く大枝を短かく主幹は短かく横枝は長く切る可し

移 植

移植は此れより春季發芽前まで必ず行ふ可し
何れを間はず移植の際は直根を二三寸の處より切斷す可し
主なる果樹類の肥料

一、柑 橘

十年生位のものならば干鰯を粉砕したるものを一本に二升（又た鯨粕油粕を混じたるものを二三升干鰯の代用として施用するもよし）堆肥三貫以上の分量を二回に分與す

二、梨

十年生位ならば干鰯大豆粕油粕鯨粕等何れを施すも各々二升位に下肥二升五合堆肥三四貫以上二回分與

三、桃

七年生のものには

干鰯二升位堆肥下肥各々四、五貫を二回に分與す可し

四、柿

堆肥と下肥油粕を施す分量は十五年生位ならば四五貫目なり

48 重要果實貯藏法

果實の貯藏に適する温度は華氏四十五度内外なり貯藏室は二重壁に作り壁間に鋸屑を填充し温度の變化を少なからしむるをよしとす

梨

梨の貯藏は最も容易なり然しながら早熟種は永き貯藏に堪はず久しく貯藏せんとする梨果は晴天の日に採集し室内に四、五日間置き然る後乾布にて拭き一個宛紙に包みて箱内に納め涼しき場所に貯へ置く可し

柿

柿は其の儘にては永く貯藏すること能はず故に種々調製して之れを貯ゆ調製に種々あれ共最も廣く行はるゝ
白柿の製法を畧記せん

白柿を製するには澁柿の將さに黄色を呈せんとする時に摘採し（此時蒂の處に少し枝を附し懸垂に便ならし

む可し) 薄刃庖丁を以て皮を削き帯を去らざる様にし二果を一連として竿に懸け二十日間許り乾かす可し斯くて竿より取り落ろし一果宛となし形を正しくして再び席上に干し箱内に納む箱内には乾燥せる葉を敷き其の上に柿を正しく並べ更らに其の上に葉を覆ひ層々繰返し納む可し夫れより十四五日を経て晴天の日を期し箱より取り出し二三日間乾かして再び箱に蔵す可し然かる時は自然に柿に糖分を發し白粉を生し甘味なる白柿となる



九州地方農家の寶附録

一、貯藏穀物の害虫驅除法

貯藏穀物を害する普通の害虫はコクゾフ及びコクヌストなり

此等の驅除豫防法

倉庫は十分清潔にし透間にある塵芥を取り除き又た被害甚だしき時は硫黄花に硝石を交せ蒸蒸を行ふべく收納したる穀物は十分乾燥して貯ふ可し穀物を害する場合に於ては攝氏八十度の温度に三十分以上放置す可し斯くする時は成虫幼虫共に死滅し然かも穀物の發芽を害するとなし

又た單に硫黄に火を點じ蒸蒸を行ふ事あり此の法も又た非常に効力あるものなり近來倉庫の害虫驅除劑として盛んに二硫化炭素を使用する様に成りしが故に之が使用法を記さん

先づ貯藏室を密閉し若しくは被害穀粒を密閉器内に入れ二硫化炭素を以て蒸蒸す可し今密閉室内五百立方尺なる時は右の藥劑六十匁を數多の小皿に分注し速かに戸を閉づ可し然かる時はこの藥劑は自然に蒸發し且つ空氣より重き爲め各透間に進入して悉く虫を殺す密閉時間は二十四時間乃至三十六時間にて足る(但し此の瓦斯は極めて點火し易きものなれば力めて火氣を避く可し)

二、肥料の三要素

肥料の三主要成分とは即ち窒素、磷酸、加里である何故に三要素と云ふか、植物の土壤より吸収する養分は水分の外窒素、磷酸、加里、曹達、石灰、酸化鐵、苦土等なり是等の養分は孰も植物の生育に必要欲ぐ可からざるものなれ共窒素、磷酸、加里を除く外は各地の土壤に多く存在するが故に普通の土地にては之れが缺乏を告ぐる事なし然るに窒素、磷酸、加里、は土壤中多量に存在せざるのみならず植物は之れを要する事多ければ特に之等の肥料を稱して三主要成分と云ふ窒素、之れは俗に葉肥と云ふ何故に葉肥と云ふか……此の成分は重に莖葉を形成し之れを施す時は直ちに莖葉濃緑となり一見して生育の良好となりたるを知る故に葉肥と稱す磷酸……之れは實肥と云ふ何故に實肥と云ふか……磷酸分は莖葉の増大及び濃緑を呈する事なく穀實の重量を増し品質を良好にし此れが成熟を速かにし其の收量を多からしむるが故なり

加里……一名莖肥と云ふ之れは莖葉を丈夫にし全く倒伏の恐れなきに至らしむるものなればなり茲に一寸御断り申上ねばならぬ事がある夫れは右の如く葉肥實肥莖肥等と雖も之れ等のものは單獨に其の効用を成すものにあらず必ず三成分揃つて始めて一つの穀物を形成するものなれば此の點に御注意せられん事を願ふ間々磷酸肥料のみを施して其の不結果を訴ふるものあれ共其れは根本から間違つて居る、若し三成分中其の一成分不足する時は他の成分は其不足せる一成分丈の收量しかないのである之れを肥料の最少養分率といふ

讀者の既下知られる如く肉を煮るに單に之れのみを煮て以て食に供用する事を得ず醬油を加へて僅かに食

に堪わ此の上に砂糖を加へて初めて完全に吾人の食膳に上する事を得るのである即ち肉は窒素で醬油は加里で磷酸は砂糖と考わねばならぬ故に右の一物を飲んでも植物は之れを利用する能はざるを以て宜敷三要素に注意して之れが併用を心掛けざる可からず(河村農學士)

三、礦物肥料使用法

一、窒素質肥料、硫酸安母尼亞

硫酸安母尼亞は百斤の中に二十斤餘の窒素成分を含有する濃厚な窒素肥料なり此の肥料は比較的廉價にして且つ其の効能顯著なる耳ならず其の容積小にして施用上至極便利なれば近時農家の好で使用する所となり随つて海外より輸入する事年々増加するに至れり硫酸アンモニアは他の硝酸及び炭酸安母尼亞等の如く飛散或は降雨灌溉水等の爲めに流失せらるる事少なき安全の肥料なり然ども之れを土中に施す時は久しからずして硝化作用を受け硝酸性に變するものなれば同時に多量に施さず漸次に少量宛つ數回に施す可し

之れは田畑各種作物の肥料として宜らしむるの恐あり

注意す可きは石灰性の土地或は石灰性の物質と同時に施用する時はアンモニアなる窒素成分を游離消失せしむるの恐あり

うす

四、礦物肥料使用法

一、窒素質肥料智利硝石

南米智利國に多く産する故此名あり智利硝石は百斤の内に十七斤の窒素成分を含有す之の肥料は他の硝酸性肥料の如く水に溶解し易く且つ土壤によりて吸収せられざるを以て稻田に施す時は灌漑水に伴にはれて流失し又た下層に滲漏するを以て其の奏効減少する故全く施す可からず之れを畑作物の肥料として施用する時は多く各種の作物に適し其の奏効極めて迅速にして作物の收穫を増し病害を豫防し間々其の品質を良好にし他の肥料を施こせるものより成熟を速かならしむものなり

智利硝石は晩秋より初冬の間にて最も利益多き肥料なり其の理由は他の有機肥料等に於ては氣候寒冷なる爲め腐敗遅く且つ硝化作用を行ふ細菌の働き微弱となるを以て随つて其の効力著しからず斯かる場合に於ても智利硝石は之れ等の作用を受けずして直ちに植物根に吸収せらるゝを以て特に奏効大なりと知る可し
注意……此の肥料は前述の如く雨水の爲め流失せられ易く殊に施用後間もなく雨に遭わば何等の効能なきに至るを以て硫酸アンモニアより一層施用の度數を増し且つ一回の施用量を減せん事を要す此の肥料を用ふるには雨後(二月目より四月目位)なれば單に地上に撒布し然からざる時は肥桶一荷(凡そ八十斤位の水を入るゝ)に二百五十匁より三百匁の割合を以て溶解し澆肥として用ゆ可し地上に撒布して深く打ち込む可らず

近來石灰窒素等間々使用するものあれ共一般には未だ使用せられざれば之れを啓す

五、過磷酸石灰使用法

過磷酸石灰の施用量は土質に應じて自から多少あれ共稻田ならば一反歩に付凡そ三貫目乃至七貫目普通の土地にては五貫目を適量とす最多の際にも十貫以上を施す必要なし……麥及び雜穀は三四貫目乃至五六貫目豆科植物は三貫目より五六貫目位根菜類ならば四五貫乃至六七貫普通五貫位なり

此の肥料は後作まで幾分殘留するを以て次作物には多少加減して可なり

注意

- 一、過磷酸石灰を使用する前に木灰、石灰、土等と混じて放置する時は可溶性磷酸分は還元(磷酸一石灰が磷酸三石灰となるもの)せられて不溶性性と變化するものなれば斯かる失策なき様にせざる可からず
- 二、過磷酸石灰は製造後久しきを經る時は不溶性に變ずる事多きを以て可成新鮮のものを使用せざる可からず
- 三、此の肥料と智利硝石とを混する時は亞硝酸を生じ植物を害する故注意す可し最も多く農家が失策する事は此の肥料と木灰とを同時に施す事之なり前述の如く木灰と同時に施す時は不溶性と變化するものなれば特に注意して木灰を一週間許り後れしむるか又た一週間許り先きに施す可し過磷酸石灰は百斤の中に十四五斤乃至十七八斤の磷酸分を有す勿論他の窒素加里等を含有する事なし

過燐酸石灰は概して田地よりも畑地に於て肥効大なり即ち田地にありては水の爲め流去せらるゝ量大なればなり

依つて稻田に之れを施すには此の肥料中に含有する大部分の成分を流去せしむる恐れあれば成る可く植付以前に施さざる可からず殊に或地方の如きは田草取る時に水を湛わて施こし然かる後草を取り放水する處もありかゝる法を行ひて收穫時に至つて其の不結果を訴ふものあり之れを云ひ肥料三要素の配合不良と云ひ共に農家の深く講究す可きものとす

之の肥料は奏効迅速なれば最も生育期の短かき作物に適す過燐酸石灰は酸性に富むを以て種子の發芽を妨げ又た幼苗を害するを以て多量に施す場合には肥料の上に土を覆ひ然かる後下種又は移植を行ふべし

六、重過燐酸石灰使用法

重過燐酸石灰は百斤の内四十四斤の燐酸分を含有する最も濃厚なる燐酸肥料で御座います此の肥料の長所は久しく貯ふるも効力を減ずることなく且つ容積が尠ないものですから運搬費を多く要しません代價の稍安からざるは是れが短所で御座いますよ之れを施す時は過燐酸石灰の三割より四割位を與えます即ち過燐酸石灰七貫目施す場合には重過燐酸研灰は二貫百匁位より二貫八百匁位を施す時は殆んど夫の七貫目使用致したるものと効力を同様にする事を得ます

沈澱燐酸石灰

此の肥料は過燐酸石灰よりも少し解けにくい性質の肥料で御座います然かし作物の根から出します汁は此の肥料を解かして吸ひ込む處の力を以て居ますから其のきゝめは充分あるのでございます此の肥しの長所は吸收力弱き砂土、泥炭土等に極く宜ろしく殊に深田に在りては其の効前者よりも優る事が多いのです此の理由は雨水、灌溉水等に流れ去らしむる患少なきと吾國の氣候が濕潤にして暖かなるため解け方が早いからであります

七、硫酸加里使用法

硫酸加里は重に獨逸國に産す

硫酸加里は百斤の内五十斤の加里成分を持てる濃厚なる肥料なり此の肥料は有害物を含まざるに依り各種の作り物に施して害の事なく前に述べたる如く豆類は此の加里質肥料を好む故總ての豆類に施して非常なる効力あり之れを施して最も有利なる土壤は重粘土質及壤土等なり

塩化加里

塩化加里はカイニットとも云ひます此の肥料は最も解け易き性質の肥料でありますが此の肥料に付き注意すべきは砂糖黍、澱粉を取る馬鈴薯及煙草等には余り施して宜敷有ません

八、農家は人糞尿に就き如何なる注意を要するか

下肥と云はば聞たばかりで何たかいやな臭がするは度々市民より承たまわる事ですが吾々農業者はそんな

事はありません勿論臭はするが其の香しい臭は恰かも麝香の様だ故に私は農家の麝香とつけた其の實麝香以上の價値を持つて居ると云ふ事は農家は勿論市民も一日たりとも忘る可からざる事である

農家が麝香を購入する時は如何なる家より求めるが有利なるや

麝香は何れも皆同一なりと早や合點してはなりません随分其の香に依りて價格に上下がありますたとへ金高に於て高低がなかつたにした處で其の効力の大小が直ちに金の高下となつて來ます、然からは如何なる家から取るのが利益なるやと云ふに其の等位は次の様です

- 一 等 西洋人の作れるもの
- 二 等 金持で然かも老人計りで作りしもの
- 三 等 軍隊で作ししもの
- 四 等 市民の作りしもの

此の他等外に属するものは農家で作りしもの極不良なるものは小學校中學校等の成長盛んなる兒童の拵れたものであります一對下肥と云ふ肥料には價格の高低なきものなれば農家が購入する場合には特に注意して優良なるものを求めざる可からず農家諸士は此の問題を輕々しく讀み流さる可からず

消毒したる下肥と稀薄したる下肥
流行病ある場合に多く下肥を消毒する事あり主に糞尿の消毒は石灰を以て行ふを常とす然らば下肥に石灰を加ふる時は如何なる成分に變化あるかと申せば炭酸アンモニア(糞尿中の窒素成分)を石灰の力らに依り分離して之れを空氣中に飛散せしむ夫れで諸士も御存じでしょうが石灰を投じた圃(かた)に入る時は鼻を突く様な香が

しますがあれが即ち、アンモニアの飛散が劇しい證據であります又た貴殿方が元々(石灰肥料施用禁止以前)石灰は安い然かも安く効めが多いと頻りに御使用なさいましたが元々石灰と云ふものは肥料分と云ふ成分を持つものにあらずして前述の如く窒素成分を分解して今まで植物の根が吸収する事が出来なかつたものを吸収し得る様にして植物に與ふる迄のことであります夫れで永く石灰肥料を使用する時は遂に作物は生長する事が出来なない様になつてしまいます』が石灰は不溶解の肥養分を分解して可溶性分となし土性を改良し病虫害を妨ぎ硝化菌の繁殖を盛んならしめ雜草を枯死せしむる等の効顯著なるものなれば肥料としての効力充分なる事は決して農家の没却す可からざる事である此の他石炭酸を以て消毒する事もあります之れを用ひた下肥は植物に害を與わすから之れは断然使用してはなりません

- 一、糞尿腐敗せざるため作物に有害作用をなし加之窒素成分の流失する恐れあり
- 二、消毒剤は容積を増し運搬に不便を來たし肥料成分を稀薄ならしむ
- 三、消毒剤には作物に有害なるもの多し

九、下肥の使用法

(一)之れが使用に就き第一に注意すべきは此の肥料に有機物の乏しきことなり故に此の肥料のみを以てして

は、土壤の理學的の性質を改善する事能はず故に有機質の土壤には此の儘施して宜敷きも砂土の如き之れに
乏しき土地には厩肥等と混じて堆肥として施すを有利とす

(ロ)此の肥料は比較的窒素に富み磷酸、加里に乏しきが故に磷酸加里を多く要する作物及び溶解体の加里成
分に乏しき地に施す時は此等の成分に富める肥料と混じて用ふ可し

抑も下肥は窒素を多含するのみならず非常に分解し易き状態なる故効め頗る迅速なれば單に下肥のみを用ふ
れば作物の莖葉徒らに繁茂して其の結實力を損ず

「下肥の使用悪しきは莖葉のみ茂り榮わて實入り少なし」
(ハ)下肥の作物に於ける効力は哺乳動物の乳に於けると同様なれば播種時に必ず少量なりとも與ふ可し然か
る時は幼植物の生長を速かならしめ虫害風雨害早害等を免れしむ然かし此時使用する下肥は濃厚なる可らず

(ニ)下肥は速効肥料なれば追肥として度々施す可し
(ホ)下肥を施すには朝夕又た雨後に施すか又た作物の根際を淺く掘り之れに施し然して土を覆ふ可し
若し其の儘に捨て置かば風の爲め日光の爲め飛散せらるゝのみならず害虫を誘引する恐れあり

十、肥料を調合する時の注意

肥料名	利害	摘要
下木 灰	大害	利害なきもの

過磷酸石灰	ト石 灰	ト智利硝石	ト底肥	此の他のものは	利益	大害	幾分害	利害なし
-------	------	-------	-----	---------	----	----	-----	------

硫酸アンモニア	ト石 灰	ト木 灰	トトイマス	トトイマス	利益	害あり	害あり	害
下肥ト過磷酸石灰					利益			
下肥ト木 灰								

十一、肥料價格早見表

次に記載する肥料の代價は總て學問上の値段なれば農家は此の表の代價と購入せんとする肥料の代價とよ
く見較へ安き肥料を選び購入す可し

肥料名	十貫目の代價	百斤の代價	摘要
干肥	二圓六十六錢	四圓二十五錢	
鹽(ホシカ)	三圓四十錢	五圓四十四錢	
鹽	三圓〇九錢	四圓九十四錢	

毛	一圓九十二錢	三圓七錢
人糞	三十一錢	五十錢
鶏糞	六十四錢	一圓二錢
油粕	一圓五十三錢	二圓四十五錢
大豆粕	二圓十一錢	三圓三十八錢
燒酎粕(ホサヌモノ)	五十九錢	九十四錢
醬油粕(ホサヌモノ)	五十七錢	九十一錢
野草	十五錢	二十四錢
れんげそ	十二錢	十九錢
棉實	一圓九十四錢	三圓十錢
大豆	一圓五十錢	二圓四十錢
硫酸安母尼亞	六圓十五錢	九圓八十四錢
氯化アンモニア	七圓八十六錢	十二圓五十八錢
硝酸アンモニア	八圓十八錢	十三圓九錢
智利硝石	四圓六十五錢	七圓四十四錢

油粕は各三成分の割合宜敷故高くとも買つて宜し

醬油粕は塩分多き故幾分これより安く買ふ可し

大豆は大豆粕より肥料分少なきに注意せよ

智利硝石は最も速効肥料なり水田に施す可からず麥田には差間なし

磷酸肥料

骨粉(蒸製)	三圓三十三錢	五圓三十三錢
過磷酸石灰	一圓八十錢	二圓八十八錢
重過磷酸石灰	五圓二十錢	八圓三十二錢
トーマス燐肥	一圓七十五錢	二圓八十錢
波酸燐酸石灰	三圓四十四錢	五圓五十錢
米糠	九十七錢	一圓五十五錢
ムギカス	一圓	一圓六十錢
加里肥料		
木灰	九十錢	一圓四十四錢
草灰	三十九錢	六十二錢
硫酸加里	一圓三十一錢	二圓十錢
カイニット	七十三錢	一圓十七錢

米糠が磷酸多けれ共麥のなかゞ窒素分多きため代價返つて高くなる

十二、主なる病害虫驅除劑の製法

石油乳劑の製法

石油一升五合水五合洗滌石鹼二十匁を以て作る

先つ水を沸騰せしめ右の石鹼を投じて溶解し石油は別記に入れ冬期は少しく温め置き(夏期は其の儘にてよし)右の二液を混じて攪拌し白色濃厚なる粘液を得る之れを原液と云ふ之の原液を使用する場合に適宜に水を投じて稀釋す(多くの害虫に使用して効あり)

煙草石鹼合劑の製法

煙草六十匁を熱湯五升に浸出し之れに石鹼百二十匁を混し冷却して十倍より二十倍の水を加わて稀釋して使用する

あぶらむし等には極く効あり

亞砒酸液の製法

醋酸鉛八匁亞砒酸曹達三匁を各々別器に溶解し後ら二物を混合して之れに水三斗を加わ使用す可し凡ての害虫に効能大なり

パリヌグリーン

此の者十二匁を取り水五六斗に投し使用す可し使用中度々攪拌を要す

二硫化炭素

地中に在りて根部を食害する虫を驅除するに用ひ又た貯藏室の驅虫に用ふ

ロンドンパーブル

之れが使用法は「パリヌグリーン」と同様なり

木灰及び糞灰

木灰及び糞灰は病害驅除に効大なるのみならず肥料ともなり且つ多量に得易きを以て成る可く之れが使用を圖る可し

木の硬軟に依り効果に大小あり堅木は勿論効力大なり

麥の黒穂病、斑葉病、煙草の赤星病等に宜敷く

又た地嫌性のある地に施す時は此の害を除くを得べし

生石灰

各種の病菌は八倍乃至十倍液に死滅す

硫黄華

此の者は亞硫酸瓦斯を發生して強き殺菌力あり

ホルドゥ合劑

此の液は次の割合にて調製す

硫酸銅 百二十匁

生石灰

百二十匁

製法一斗の水を用意して此の内三升を温湯とし之れに硫酸銅を投じて溶解し次ぎに又た別器に水七升を入れ之に生石灰を投じて溶解し篩を以て濾し然る後二液を合して之れを製す此の液の良否を鑑定せんとせば磨きたる小刀を挿入す可し而して若し銅分小刀に附着して赤色を呈すれば之れは不良のポルドー合劑なり然かる時は尙ほ石灰を加えて銅分全く附着せざる様にして使用す可し之れを使用する場合には種々の事情に依りて其の稀釋程度異なり二斗式三斗式等は凡て投加水量の多少を示すものなり

十三、卵を多く産む鶏

- 一、レグホーン 二、アングルシャン 三、ミノルカ 四、スバニツシエ

十四、卵も割合に多く産み肉も割合に付く鶏

- 一、プリモースロック 二、名古屋コーチン 三、ワイアンドット

十五、肉付多けれ共卵数少なき鶏

- 一、バンコーチン 二、ドーキング 三、ウーゲン

十六、豚、馬、牛の妊娠期

- 一、豚 百十五日 馬 三百四十五日 牛 二百八十五日

十七、草木移植に付いての注意事項

一、成る可く呼吸に掘取りて根を切斷せざる様にし又た根に附着せる土を落さざる様にす可し(稻の如きは此の限りにあらず)

二、若し根を切斷せし時は之れと均合を保つ様に莖葉の一部分をも切り去りて植う可し

三、移植す可き土地には成る可く濃厚肥料を施す可からず

四、移植せし時は根邊を鎮壓し置可し

五、成る可く植物の生長をやめたる時に移す可し

六、成る可く曇天にして風なき日に移す可し

七、移植したるものには覆蓋フクレをなす可し

八、老木を移さんと欲せば前年より根先きを切斷して成る可く細根を多く生せしめて後移植す可し

九、倒伏せざる分根の露出せざる限り淺く植う可し

十八、下種深淺の度合

一、大粒の種子は小粒の種子より深くす可し

二、砂土には粘土より深く蒔可し

三、嚴寒若しくは酷熱の場合には深く然らざる時は淺くす可し

四、凡ての場合に於て無理に深きは宜しからず

十九、下種及びの移植の時に於ける疎密の程度

- 一、適良なる氣候及び土壌には疎にす可く之れに反する時は密にす可し
- 二、良好の種子は然らざる種子よりも粒数を減す可し
- 三、古るき種子は下種量を多くす可し
- 四、早やく蒔く時は遅く蒔くものより下種量を少なくす可し
- 五、採種用のものは成る可く薄く蒔く可し

二十、鶏卵の防腐法

- 一、卵の腐敗を防ぐには生石灰を水に溶解したる器内に浸漬し一週日を経て取り上げ貯蔵す可し
 - 二、水硝子を卵に塗沫して貯蔵するもよし
 - 三、あらびやごむを塗沫して乾かし貯蔵するもよし
- 兎に角此等の物質を附着せしむる理由は卵殻面に無数の通風孔ありて此の穴より空氣と共に卵内に黴菌浸入して腐敗せしむる故此の空隙を填塞して通風を断絶せん爲めなり

廿一、孵卵に就て

- 一、孵化用の卵は産卵後二週間以内のものを用ふ可し
- 二、普通の鶏には一回の孵卵には十個位の卵を任かす可し

三、孵化日数は二十一日なり

- 四、人工にて孵化せしめんと欲せば攝氏三十九度の温度を保たしむ可し
- 五、卵を孵す時最も注意す可きは乾燥して卵内の水分減する事なり故に此の時丈けは巢箱を濕氣に富む處に移す可し

六、振倒せる卵は孵化せず

廿二、堆肥製造に就き注意す可き條件

- 一、堆肥小屋を設くる事堆肥小屋は成る可く北向なる事但し北風甚だしき處は北西向きとす可し
- 二、堆肥小屋の壁は成る可く土或は石を以て隙間なき様作る事
- 三、堆積の高さを五尺位に止むる事
- 四、七寸位宛に堆み固く踏み付くる事
- 五、水を多量に加わて踏み付くる事
- 六、二十日に一偏位切返しを行ふ可き事此の時は必ず水を加わ踏み付く可し
- 七、最上に土を覆ひ置く事

廿三、米券倉庫とは如何なるものや及米券倉庫の利益

米券倉庫は熊本に早やくより設立せられたり之れも經營法數多あるに依り茲に熊本縣八代郡鏡町の米券倉庫

經營法の一端を述べん

該倉庫は輸出米検査の必要上起り後ら俵裝改良を企て又た小作米の改進を圖り加えて金融事業を兼ねるに至る現時該地方に最も重寶なる事業として舉げられ居る一つなり米券倉庫を設立する時は各個人に貯蔵庫を設くる必要なく又た安全に貯蔵穀物を委託し得るを以て盜難等の患いなきのみならず此の券面引き換に金錢の融通を計り居るを以て農家は米價下落の際に米を賣出す必要なく此の他の利益としては一々入庫米の検査を行ひ雜米、乾燥不充分、俵裝不良、樹目不足、調製不良のものは一切入倉を拒絶する故に小作米の改良をなすに最も妙なり購入者も一等米二等米と券面を購し倉庫に至り引き出し得るのみならず前記の確實なる検査を施したるものを購入するを得るに依り最も安全なるものなり

廿四、産業組合の利益

- 一、資金乏しき者に資金の融通をなす事を得
- 二、小農業者をして熱心に改良事業をなさしむる事を得
- 三、組合員相互の親和を計り勤勉の美風を養成せしむ
- 四、小農業者をして大農業者と同一の利益を受けしむるを得
- 五、低利に資金の供給をなす事を得
- 六、安價に物品の購入をなす事を得

七、高價に物品を販賣する事を得

八、僅少の金錢をも貯蓄するを得べきに依り貯蓄心を養成し兼ねて自治の精神を助長せしむ

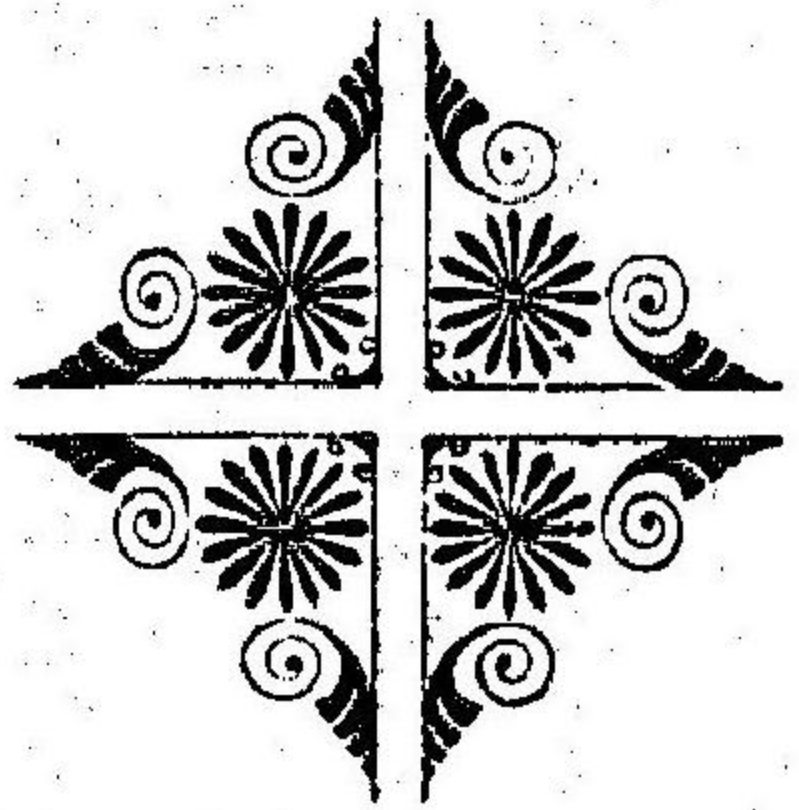
廿五、頼母子講と農工銀行より借入する年賦償還との比較

一、茲に年二回の講にて一回五圓掛けの時落札百圓を得此の後十年二十回にて掛け込まんとする場合と農工銀行より年九分の利子にて十ヶ年賦償還契約を以て百圓借入せる時の比較をなさんに

農工銀行より九分利十ヶ年賦にて百圓を借入する時は年々十五圓五十八錢宛償還せざる可からず講掛金は年々十圓宛を償還すれば足る依つて之れを歩合を以て算する時は農工銀行の年賦償還額は毎年借入金を一割五分五厘餘に融通せざれば利金のろを以て返済する能はず講金は一割を以て利子のみにて完済するを得べし故に年々五歩五厘餘の利益となる依つて農工銀行より借入するのと同しめんと欲せば講會年賦償還落札高は六十五圓餘なれば殆んど前者と全一なり讀者乞ふ右計等の結果を對照して各地方に行はる、頼母子講の利廻りを調べて便利の手段を講ず可し

廿六、農産種子郵税

農産種子は二十匁又たは其の端數毎に一錢一箇重量三百匁を超ゆ事を得ず



明治四十三年六月廿三日印刷
明治四十三年六月卅日發行

定價參拾五錢

著作兼
發行者

山本公之

長崎市新町十四番地

印刷者

永田善彌

長崎市江戸町五十九番地



印刷所

内外活版工場

長崎市江戸町五十九番地

販賣所

長崎市酒屋町

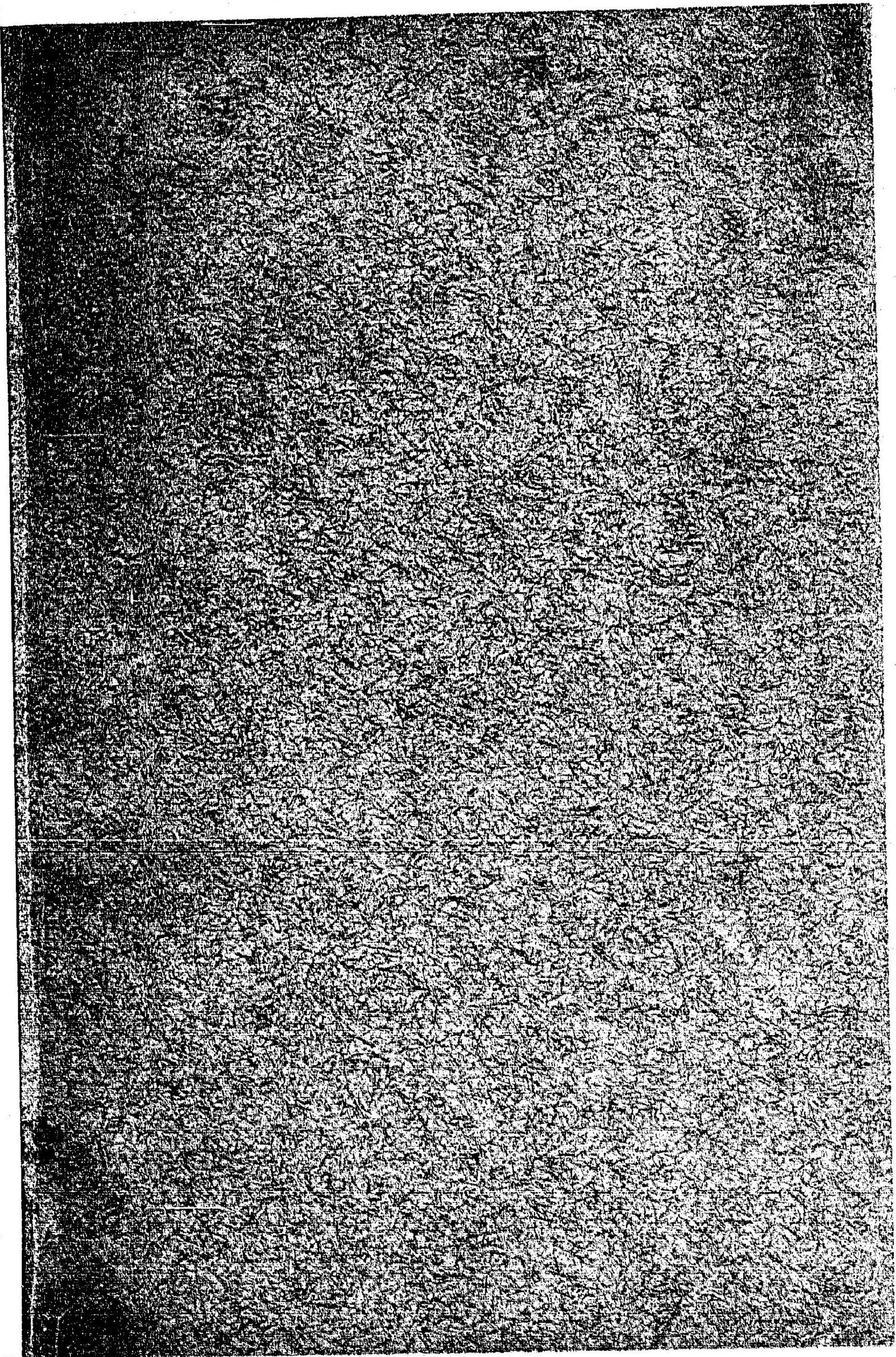
虎

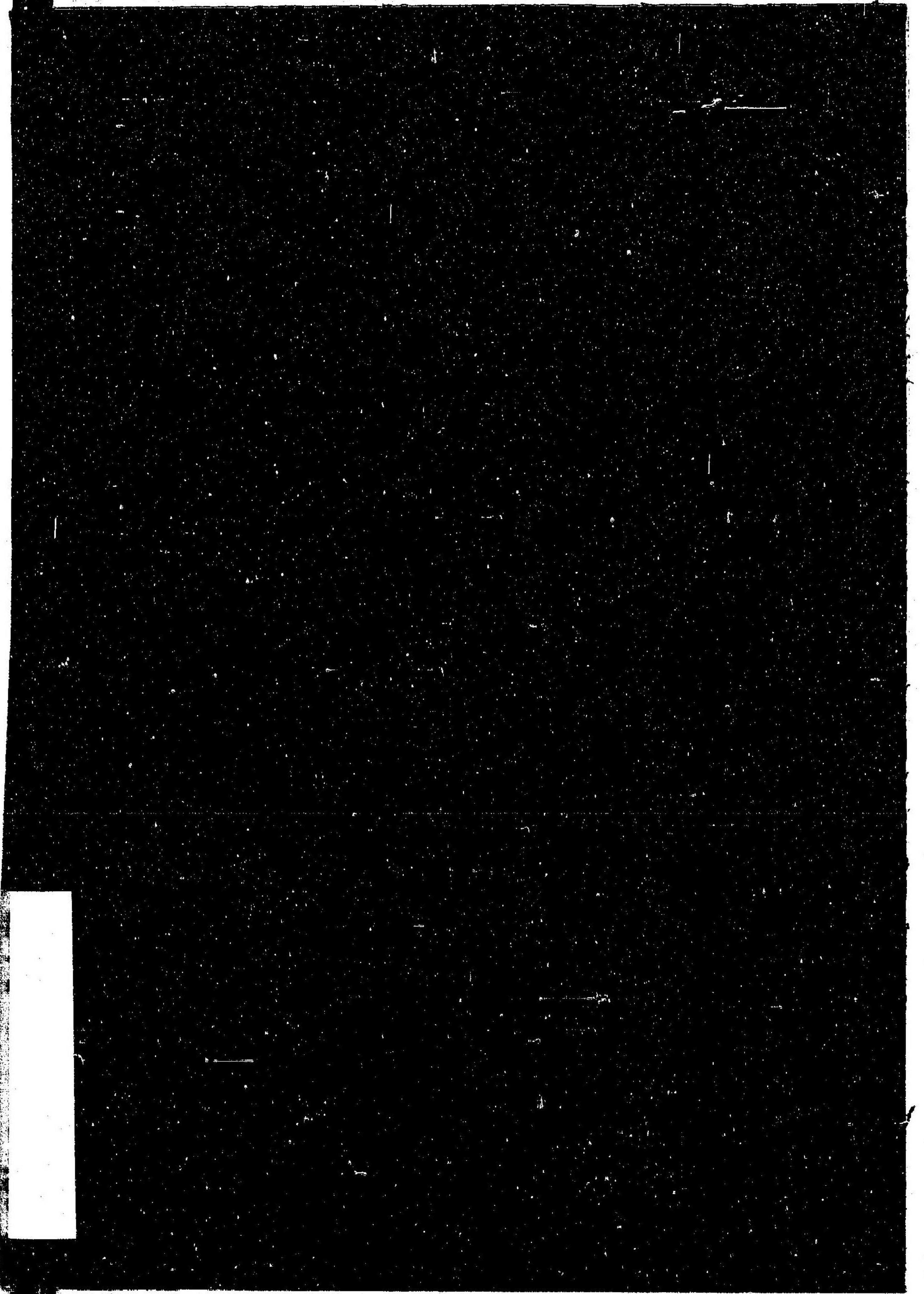
與

號

265

189





特45
184

禁
複
写

九州
地方 農家の宝

国立国会図書館

061668-000-5

特45-184

九州地方農家の宝

山本 公之/著

M43

CCA-0302

